

2020年度 社会福祉法人福浜会事業報告

・ 法人	・・・	P 1
・ はまぼう	・・・	P 3
・ あにまあと	・・・	P13
・ そるとぽっと	・・・	P21
・ 松ぼっくり	・・・	P28
・ 潮の香	・・・	P37
・ 結	・・・	P45
・ 地域療育支援センター事業	・・・	P47
・ 地域生活支援	・・・	P48
・ 汐風	・・・	P50
・ 磐田市障害者相談支援センター及び 磐田市障害者虐待防止センター	・・・	P53

社会福祉法人福浜会

2020年度社会福祉法人福浜会事業報告

新型コロナウイルス感染症が、報道されてから1年以上が経過しますが、終息に向かう状況は見られず、緊急事態宣言が発せられた地域やまん延防止等重点措置の地域が少しずつ増えています。変異株による拡大も見られ、今後の見通しが立てられない現状があります。

この影響で今年度は、施設の活動だけでなく、法人全体の行事や法人役員会等開催にも影響が出ました。今まで恒例としてきた行事が実施できずに、中止となったり縮小せざるをえなかったりしました。また理事会や評議員会などの役員会等も対面による会議ができず、書面評決となりました。法人や施設の現状を書面でしか伝えられないのは、もどかしく、少なくとも情報は共有できても、忌憚のない意見を伺うことも難しく、議論することもできません。正常に近い日常が早く来るように望まざるにはられません。

具体的には、5月には、自粛による施設閉所を経験し、楽しみであった宿泊体験や地域交流会も中止せざるを得ませんでした。施設での活動の制限は、ご本人だけでなくご家族も含めてストレスに繋がります。全国的には、コロナ禍による自殺者も年代に関係なく増えています。メンタル面にも配慮し、対応を心掛けてきた1年でした。

さて今年度は、特別支援学校卒業後の利用だけでなく、年度途中より他施設を利用されていた方の利用も複数名ありました。法人・施設の活動内容や方向性とご本人やご家族の意向のミスマッチが、年数を重ねる中で見られることがあります。法人・施設の在り方として、そのご希望や願い等にどれだけ寄り添い、自己実現を図っていくのかを問われているとともに、一人ひとりの心身の状況に適った柔軟性のある対応の重要性を改めて感じました。

このような点で困難さを感じた事例が、今この地域で上がっています。特別支援学校卒業を控えその利用先が見つからず、地域の事業所等が集まり話し合いを重ねてきたケース事例です。当法人の施設を週に半日だけ利用することになっていますが、継続して話し合いが必要です。現在施設を利用されている方たちの支援の保障（暮らし・権利・自由・安全を守る）の側面と、これから社会に出てくる人の支援の狭間で、事業所としては悩ましい面はあるのですが、対処しなければならない課題です。

当法人では、今年度に入り、来年度以降に向けた課題が挙がってきています。それは、親御さんと利用者さんの高齢化への対応で「老障介護」と言われています。すでに、複数の相談件数があり、今年度プロジェクトチームが発足し、話し合いが始まりました。実際、親御さんが高齢者施設に入所され、今さまざまな支援サービスを受けながら、障がいのあるご兄弟だけで暮らしている事例があります。来年度には、ご本人やご家族と具体性のある話し合いの機会を持つことになると考えています。

このようなさまざまな課題の解決に向けて重要となるのは、ご本人やご家族、行政等との話し合いはさることながら、やはり人材の確保と人材育成ではないかと思われまます。2019年度の法人事業計画にもあります「適切なサービス提供体制の確保と質の向上」の実現です。日常の活動の充実を図ることとともに、今後の暮らしの在り方にも視点を置きながら、将来にわたり支援をしていく役割は、法人・施設はもちろんのこと、利用者さんとともに日々過ごしている職員の方たちにも意識してほしい事です。その意味では、幅広い視点を持った成長への願いです。それが、一人ひとりの暮らしに直結していくのではないかと思うのです。人材育成については、来年度は新たな一步を踏み出す時ではないかと考えています。

2020年度理事会

開催日	出席者数／理事総数	議 題
6/12	6／6 監事 (1／2)	1 令和元年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告）並びに社会福祉充実残額計算結果について 2 令和2年度社会福祉法人福浜会第1次補正予算案について 3 社会福祉法人福浜会評議員の選任候補者推薦及び評議員選任・解任委員会開催 4 社会福祉法人福浜会定時評議員会の開催について 報告事項 理事長職務執行状況報告
9/16	6／6 監事 (2／2)	1 社会福祉法人福浜会評議員の選任候補者推薦及び評議員選任・解任委員会開催 2 生活介護事業潮の香の運営規程の変更について
2/3 (書面決議)	6／6 監事 (2／2)	1 令和2年度社会福祉法人福浜会第2次補正予算案について 2 第2回評議員会 決議の省略について 報告事項 理事長職務執行状況報告
3/15 (書面決議)	6／6 監事 (2／2)	1 令和3年度法人及び各事業の事業計画について 2 令和3年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 3 社会福祉法人福浜会各施設運営規程の変更について 4 第3回評議員会 決議の省略について 報告事項 理事長職務執行状況報告

2020年度評議員会

開催日	出席者数／評議員総数	議 題
6/26	6／7 監事 (1／2)	1 令和元年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告）並びに社会福祉充実残額計算結果について 2 令和2年度社会福祉法人福浜会第1次補正予算案について報告事項 報告事項 職務執行状況報告
2/26 (書面決議)	7／7 監事 (2／2)	1 令和2年度社会福祉法人福浜会第2次補正予算案について 報告事項 職務執行状況報告
3/22 (書面決議)	7／7 監事 (2／2)	1 令和3年度法人及び各事業の事業計画について 2 令和3年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 3 社会福祉法人福浜会各施設運営規程の変更について 報告事項 理事長職務執行状況報告

2020年度 はまぼう 活動報告

1. 在籍者の状況

はまぼう 2020年度の定員30名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

区分	月	'20年										'21年			合 計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入 所		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
退 所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末 在籍	男	26	26	26	26	27	27	27	27	27	27	27	27		
	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10		
	計	36	36	36	36	37	37	37	37	37	37	37	37		

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	'20年										'21年			合 計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入 所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
退 所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末 在籍	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

2. その他の利用状況

区分	月	'20年										'21年			合 計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
特実 支習 等生	人 員	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	
	延日数	0	0	0	0	0	0	8	0	2	0	0	0	2	
実研 習修 ・生	人 員	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	4	
	延日数	0	0	0	0	0	16	0	1	9	0	0	0	26	
見 学 者	件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ポテ ライ ンア	延人数	12	9	7	9	6	6	11	7	7	8	6	9	97	
	特 記														

3. 活動の状況

法人事業計画でも触れましたが、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、その影響で活動を制限せざるを得ない1年でした。具体的には、5月の自粛による施設閉所、各種行事等の中止の決断もしました。また、コロナ禍の影響で自主的に休まれる方もおり、ご家族との連絡やご本人に対するメンタル面での配慮が必要であることを実感しました。

このような状況の中、下記のはまぼうの活動報告にもあるように、遠出はできませんでしたが、状況を見ながら工夫をし、様々な取り組みを行いました。また対外的なイベントが中止になったため販売に直結することはなかったのですが、新たな縫製製品が作製されたり、農作物の育成や収穫があったり、作業面においてもそれぞれのグループで工夫がされました。

具体的な行事等については、はまぼう独自のフェスティバルやバーベキュー会（ご家族ボランティアさん不参加）、少人数による外出、室内でできる料理作り等、土曜レクリエーション、サークル活動など、これまで行ってきた以外の内容も実施することができました。参加者は、利用者さんと職員のみで行いました。

今年度は、学校卒業後の利用としては2名、8月から他施設からの利用が1名、合計3名の方が新しく通所され、日にちの経過とともに少しずつ慣れ、今では他の利用者さんと楽しく活動されています。

以前も報告しました社会福祉協議会や学校等からの依頼で利用者さんが行っている福祉教育の講和は、このような状況だからなのか、昨年度以上に多くの場所から依頼がありました。

4. グループ活動報告

主な作業活動は、受注作業・縫製等の自主製品・アルミ缶リサイクル・園芸・外部作業を中心にぼぷりん工房・オズグループと2つのグループに分かれて行った。外部作業以外は所属グループにとられることなく、利用者さんがやってみたい作業を選び行った。

(1)ぼぷりん工房

①受注作業

〈ブリヂストン(株)〉

「LD下パック清掃作業」は、工程を2～3段階に分け、個々の利用者さんに合った工程で進めていった。「LD塗装下キャップ清掃作業」は、部品が小さく細かい作業であるが、個々の利用者さんに合わせて補助具を使用したり、工程を分けたりするなどして、少しずつ無理のない範囲で行ってきた。アクリル板の設置やテーブルの間隔を取るなど、新型コロナウイルス感染予防に留意した。

〈大洋工業(株)〉

シートカバー袋詰めの前作業を行う。工程ごとに分かりやすいように工夫をし、担当する利用者さんそれぞれが意欲的に取り組む様子がみられた。

②さをり織り

さをり織りは個性を大切にしている為、利用者さんが縦糸・横糸の選択、織り方まで本人に任せることでオリジナルの布を織ることが出来た。織りあがった布は縫製作業によって製品化し、同じものがひとつと無いオリジナルのさをり織りは好評を得ている。

③縫製

さをり織りで織りあがった布の個性を生かせる製品を考え、携帯入れや巾着・ペットボトルケースなどの製品に仕上げた。アクリルタワシなどの製品については、ボランティアさんの協力も頂いた。

作る製品や生地を利用者さん自身に選んでもらうことで、自分で仕上げた達成感を味わい、製作意欲の向上にもつながった。

また、今年はコロナウイルスが流行した為、布マスクの製作を行った。いろいろな柄のマスクがあり、好評だった。

④クリスマスツリー

例年、10月～12月に作成・販売していたが、今年度は新型コロナウイルス感染予防の為バザーや販売する機会がなく、作成を見合わせた。

⑤折り染めノート

グループ全体で折り染め作業をし、数人の利用者さんでノートのカバーにして仕上げた。折り染めはそれぞれの利用者さんが思い思いの色に染め上げ、楽しんで参加できていた。出来上がった折り染めノートは、施設とご家族の連絡帳として利用された。

⑥印刷

パソコンが得意な利用者さんが年賀状作りを行った。数年間継続してやっていることで、パソコンやプリンターの不具合に苦慮しながらも短期間で仕上げる事が出来ている。利用者さん自身が考えながら自信をもって実施することが出来た。

(2)オズグループ

①アルミ缶リサイクル

毎週月曜日に、福田地区を中心にご協力くださる店舗や家庭を定期的に缶回収に回り、収集したアルミ缶の缶つぶしを行った。毎週金曜日や缶が溜まった時に、業者へ缶運搬を実施。納品の際には、作業収入増につながるため、買い取り金額のより高い業者へ缶の運搬を行った。活動は、プルタブ取りと足踏み式および卓上式缶つぶし機を使う2種類の作業工程に分けた。缶つぶしは、段階的に工程を分け、利用者さん一人一人に合った工程を担当し、多くの利用者さん同士で協力し合いながら、缶つぶしを行うことが出来た。

②リサイクル活動

月に1回、施設に溜まったダンボールやペットボトル、雑誌等をクリーンセンターに運び、リサイクル活動を行った。準備段階から利用者さんと一緒に行い、一体となって活動を行うことが出来た。

毎月申請に行き、市からの助成金(古紙等資源集団回収事業奨励金)を受けた。

③園芸・畑

県庁玄関等に飾る30鉢のプランター作りをメインとして実施。今年度は、苗を購入して花が咲いている状態で納品できるように育てた。県庁への納品・回収は、利用者さんと出掛け、通常とは違う活動で楽しみながらの納品であった。

野菜作りは、じゃがいも、にんじん、かぶを作り、収穫は利用者さんが中心となって行うようにした。グループ活動として収穫祭や施設にて販売を行った。

④ポスティング

昨年12月より指定されたはまぼう周辺の地域を対象に、チラシやクーポンなど、企業の広告物を郵便受けに投函した。利用者さん一人一人のペースに合わせ、身体を動かしながら気持ちよくリフレッシュを図ることができた。

(4)外部作業

②ベッドメイキング

〈於保老健施設〉

毎週火曜日にベッドメイキングを行った。コロナウイルスの影響で外部関係者入館禁止の為、中止していた月が2カ月あったが、それぞれが協力し合いながら、仕事に取り組んでおり、スムーズにシーツ交換が出来た。

〈さくらの苑〉

毎週水曜日にベットメイキングを行う予定だったが、コロナウイルスの影響で外部関係者入館禁止の為、2019年度3月からベットメイキング中止となっている。

(5)販売

出来上がった製品は、アプレゲール、お茶の山大園で販売した。毎年出店していた地域のバザーは新型コロナウイルスの影響で今年度はなく、縫製製品や野菜等は、来客の方やご家族の方が多く購入してくれた。今年度はマスク不足の中、布マスクを作り好評だった。

その他の活動について

(1)グループ活動

〈朝・帰りのミーティング〉

- ・ 朝のミーティングの進行は曜日ごとに当番を決め、利用者さんが主体となり、やる気をもって行えた。帰りのミーティングは金曜日のみ実施し、今週の感想や来週の予定の確認をした。
- ・ 朝のミーティング後にラジオ体操を実施し、体を軽く動かすことで作業活動にスムーズに移ることが出来た。

〈グループ活動〉

今年度のグループ外出は新型コロナウイルスの流行の為、ぼぷりん工房は4グループに分け少人数での外出を心掛け、行き先も浜名湖ガーデンパーク（オズ・ぼぷりん3グループ）・浜松動物園（ぼぷりん1グループ）と感染予防を心掛けながら11月に実施した。外出自粛期間もあり、久しぶりの外出で花や動物・お弁当を楽しむことができた。12月はオズグループで収穫祭の「じゃが芋パーティー」を楽しんだ。

宿泊体験は新型コロナウイルス感染防止の為、今年度は見合わせた。

〈はまぼうであそぼうフェスティバル〉

今年度は新型コロナウイルスの影響で、法人全体行事である「地域交流会」が開催できなかったこともあり、施設内で「はまぼうであそぼうフェスティバル」を9月に実施した。カレーライス・フランクフルト・コロケ・かき氷等の模擬店や水鉄砲・空き缶積み・エアホッケー等の体験コーナー、地元職員によるお囃子披露など一日を通して楽しむことができた。

(2)個別活動

例年、スポーツ体験や料理作りなどの生活体験を含めた活動を少人数で実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染予防の為、内容をウォーキングと料理作りに絞り、個々の希望に合わせて感染予防を徹底した上で実施した。それぞれの利用者さんが日頃出来ない少人数の活動を楽しむことができた。（希望者のみ実施 実施状況 表1）

(3)個別体験

今年度は新型コロナウイルス感染防止の為、個別体験の実施は見合わせた。

表 1. 個別活動

実施日	内 容 (行き先・メニュー等)	参加人数
10月28日(水)	ミニピクニック (袋井市・夢の丘公園)	利 2名 職 2名
11月10日(火)	料理作り (ラーメン・餃子・フルーチェ)	利 2名 職 2名
11月24日(火)	料理作り (ロコモコ丼・サラダ)	利 4名 職 2名
11月25日(水)	料理作り (お好み焼き・焼きそば)	利 2名 職 1名
12月14日(月)	料理作り (親子丼・みそ汁・おしるこ)	利 3名 職 2名
12月21日(月)	ウォーキング (弁財天大橋)	利 1名 職 1名
12月22日(火)	ウォーキング (風車公園)	利 5名 職 3名
12月23日(水)	料理作り (うどん・おにぎり・チョコバナナ)	利 1名 職 2名
12月24日(木)	ウォーキング (法多山)	利 2名 職 1名
1月14日(木)	料理作り (焼きそば・サラダ・たまごスープ・ たこ焼きアメリカンドッグ)	利 2名 職 1名
1月20日(水)	料理作り (小エビのトマトパスタ・白身魚のムニエル・コンソメスープ・パンナコッタ)	利 3名 職 2名
1月28日(木)	浜松まつり会館 (ウォーキング予定 雨天の為変更)	利 2名 職 2名
3月 4日(木)	料理作り (焼きそば・卵焼き・みそ汁)	利 2名 職 2名

5. 土曜日レクリエーション

土曜日の通所日を利用して、レクリエーション的活動を、年間9回行った。

身体を動かしたり、文化的な活動をしたりと、参加者全員で一緒に楽しめる企画が多く、利用者さんの笑顔や笑い声が印象的であった。

日 付	内 容
5 / 2	体力づくり
8 / 8	水遊び
9 / 19	ハロウィン飾り作り
11 / 7	秋を探そう大作戦
11 / 21	ミニミニ運動会
1 / 9	書初め
1 / 16	フェイスシールド作り
1 / 30	Tボール大会
2 / 13	バレンタインカード作り

6. サークル活動

第3木曜日の午後の活動時間を利用してサークル活動を行った。野外活動を中心とした「あおぞらサークル」、室内遊びを中心とした「あそびサークル」、文化的・芸術的な活動に触れ合う「ピカソサークル」の3サークルから希望をとり、1年間それぞれのサークルで企画・実施した。楽しんで参加している様子が伺えた。

実施内容

	あおぞらサークル	あそびサークル	ピカソサークル
5 / 2 1	計画 (ゆめりあ)	計画	計画
6 / 1 8	エコパ	ボッチャ	絵を描こう&七夕
7 / 1 6	ゆめりあ	アイスクリーム作り	ねんど細工
8 / 2 0	親水公園	水遊び	お絵描きあてゲーム
1 0 / 1 5	ゆめりあ	シャボン玉	ハロウィン
1 1 / 1 9	親水公園	凧作り	みんなで大きな絵を描こう (牛)
1 2 / 1 7	ゆめりあ	お正月の遊び作り	今日だけモーツアルトサークル♪♪♪
1 / 2 1	ゆめりあ	凧揚げ	プラ板
2 / 1 8	大東コミュニティ公園	福笑い	消しゴムハンコ
3 / 1 1	エコパ	パンケーキ作り &反省会	スイーツデコレーションアート&反省会

7. 行事・バザー報告

はまぼう 2020年度年間行事・バザー結果表

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	年度始めの会(1)							
5	大掃除()	環境美化委員会 (職員のみ)			ヤマハジャンボリー()	中止		
6					磐田北高校文化祭()	中止		
7	開所記念日(2)							
8	バーベキュー会(1)							
9	地域交流会 はまぼうで遊ぼうフェスティバル(17)	中止						
11	大掃除() ヤマハ労連観劇()	環境美化委員会 (職員のみ) 中止			ふくでふれあいまつり() 光る子まつり()	中止 中止		
12	ふれあい作品展(2~10)				ぬくまるマーケット()	中止		
1	新年会(6)							
2	個別面談							
3	年度納めの会()	ボランティア係						
《備考》					《毎日販売》			
<ul style="list-style-type: none"> グループ活動…外出・外食・料理作り・スポーツ等実施。 個別体験…個人の希望に沿って時期・場所等を設定。 土曜レク(開所日に実施)。 サークル活動 毎月第3木曜日 個別面談は…2~3月に実施。 					<ul style="list-style-type: none"> ・ アプレ・ゲール ・ お茶の山大園 			
					《その他販売》			
					<ul style="list-style-type: none"> ・ はまぼう販売 			

8. ともしびコンサート

新型コロナウイルス感染予防のため中止をした。

9. 環境美化委員会

- (1) 委員会内で話し合いをし、情報の共有を図ることが出来た。日頃の環境美化については、職員一人一人が意識して取り組めるよう、委員を中心に呼びかけを行った。
毎日の清掃については、職員一人一人が美化につとめ、協力しながら行う事が出来ていた。
- (2) 大掃除については、コロナウィルスの関係で、職員のみで行った。
夏季・冬季大掃除の他にワックスをかける日を別日に設けたことで、より丁寧に行う事ができた。
- (3) ゴミの分別については、適宜注意喚起することで意識して行うことができた。
以前まで、クリーンボックスを借用していたが費用削減の為、クリーンセンターへ定期的に行き、段ボールや古紙等の運搬を行い、処理を行った。

10. 安全委員会

- (1)利用者の方の安全確保
 - ・ 委員会内での話し合い、事故防止・再発防止策検証チェックを行い、事故防止に努めるよう情報収集、安全管理体制の見直しを行った。
 - ・ 「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」の集計・活用。
- (2)防災
 - ・ 避難訓練を毎月1回、避難訓練計画に合わせて実施。
 - ・ 法人全体で防災内部研修の実施や緊急時安否確認名簿作成・配布を行った。
 - ・ H23年度より、各施設・事業所の防火管理者による防災担当者会議を開催し、大規模災害時の対応等について協議を継続している。
- (3)施設設備（環境）の保全管理
 - ・ 設備自主検査を9月、3月に実施。
不具合箇所 … 詳細については、建物・設備等点検結果表ファイル参照。
- (4)安全運転管理
 - ・ 春、秋の安全運転管理協会の街頭指導に参加。
- (5)緊急事態への対応
 - ・ 緊急事態（車両等の事故）に対しては、各職員がマニュアルに従い、速やかに対応出来ていた。
 - ・ 今後も、マニュアルの検討を重ね、分かり易く対応しやすいものにしていく。

11. 生活・保健衛生委員会

(1)健康診断及び記録について

健康診断は春と秋に、レントゲン撮影は11月に実施した。検尿は随時はまぼうで行い、保菌検査は職員が毎月、利用者さんは半年に1回実施した。

血圧については、健診当日は慌しさの影響を受け正しい数値が測定できない場合もあるため日を改め測定した。

健康診断の結果については、嘱託医に確認して頂き各家庭への報告をした。必要に応じて家庭への電話連絡も行った。（通院については家庭にお任せした。）

記録については、個人表、一覧表、嘱託医訪問記録、検査結果等、随時記入するようにした。

服薬はグループ単位で把握し、服薬ミスが無いように管理した。処方箋は昼食以外の物も提出して頂き、万が一の時に把握できるようにした。

(2)体重測定について

毎月月初めに実施した。結果は、体重表（カード）に記入し、家庭に確認して頂いた。測定の結果を健康チェックの目安とし、食事量を加減したり通院時に持参する家庭もあった。

(3)機関誌について

年に3回法人全体で保健だよりを作成・発行し、それぞれの季節に必要なこと呼びかけた。

(4)衛生面について

身だしなみについては、連絡帳等で家庭と連絡をとり対応している。徹底されつつあるが、改善の必要な人がいるので、引き続き本人や家庭に働きかけをしていく。

ハンカチ所持を呼びかけていることで個人での所持率は高まっているが、今後も声掛けが必要だった。トイレでのスリッパへの履き替えが定着していない人もいたので、今後も対策が必要だった。

寝具については布団、毛布の天日干しを隔月で実施した。

(5)病気予防について

食中毒や風邪・インフルエンザ・新型コロナウイルスの予防のため外から帰った時や、食事の前にうがい・手洗いの声掛け・マスク着用を促した。そのため職員が率先して行なう姿勢が多くみられた。

感染症（インフルエンザ、新型コロナウイルス）予防の為、12月～3月には日に数回次亜塩素酸ナトリウム製剤を空中散布し、施設内4ヶ所にジェルタイプの手指消毒剤を設置した。また、ノロウイルスに関して汚物処理のための消毒薬（次亜塩素酸泡タイプ）の留置、週一回施設内の消毒薬での拭き掃除を徹底した。

部屋の換気や加湿器の使用を心がけ衛生面に注意した。

感染症についての職員会議にて伝え、施設内での感染予防を促した。

(6)防虫防鼠について

環境美化委員会にて大掃除やバルサン実施。

(7)日用品・医薬品について

トイレットペーパーやボックスティッシュ・使い捨てマスク・使い捨て手袋等、在庫確認の上、随時発注するようにした。医薬品については、使用期限の確認と在庫チェックの上、必要に応じて発注・補充した。

個人で昼に服薬がある利用者さんについては、服用の確認と声掛けを行った。

(8)着替えについて

利用者さん一人ひとりが自分の着替えを持ってきていることが多く、貸し出すことは少なかったが、下着を購入するなどして万が一の時に備えた。

(9)歯磨き・うがいについて

各自で食後の歯磨きやうがいを行っていたが、必要な利用者さんに対しては全面介助や仕上げ磨きを行った。うがいも上手に出来るように促したが、うがいが難しい利用者さんに対しては、お茶や水を飲むことで口腔内の清潔に努めた。

(10)歯科検診について

訪問歯科による歯科検診を全利用者さん対象に実施した。

12. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するために、管理者を責任者とし、人権擁護・虐待防止委員会を設置。虐待防止チェックリストを10月と3月（半期に一度）に実施し、内部研修、職員会議、回覧等により、職員への周知を図った。

利用者さんの安心、安全と人権擁護の観点から、適正な支援が提供され、利用者さんの自己実現と社会参加のための支援を妨げることのないよう、適宜、委員会を開催し、虐待の防止に努めていくことを確認した。

13. はまちゃん会（利用者本人会の代表者会）

土曜日の通所日を利用して10回の開催を予定したが、新型コロナウイルスでの緊急事態宣言時の通所自粛があり、年間9回の開催となった。恒例となったはまちゃん会主催のクリスマス会では、寸劇に挑戦をし、皆で楽しむことが出来た。年度の反省会では、通所自粛でできなかった意見交換会を来年度は絶対にやりたいと、前向きな意見が出された。

第1回 4/ 4(土)	年間計画	第7回 10/31(土)	ボッチャ大会反省会 クリスマス会計画②
第2回 5/ 9(土)	中止（意見交換会）	第8回 11/28(土)	クリスマス会計画③
第3回 7/ 4(土)	クリスマス会計画①	第9回 12/17(木)	クリスマス会
第4回 7/25(土)	ボッチャ大会について	第10回12/26(土)	クリスマス会の反省
第5回 9/26(土)	ボッチャ大会	第11回 2/27(土)	今年度の反省

14. 内部研修

年間計画に従い、各施設の研修担当者で起案を立て、合同研修会を実施する計画であったが、新型コロナウイルスの感染防止のため、法人全体研修が中止となり、施設ごとにテーマを決めて内部研修を実施することとなった。職員会議に時間を設け、各委員会や、人権擁護・虐待防止委員会からの報告をもとに小グループミーティングを行い、積極的に意見交換することができた。今後も日程、内容等の工夫をし、定期的な開催を通して職員の意欲向上に努めていきたい。

15. 相談・福田チーム検討会・地域包括ケア会議

施設等での外来相談については、結の相談支援専門員・サービス管理責任者、リーダー・地域生活支援担当者を中心に、磐田市、袋井市等の委託相談事業所などの関係機関と連携をとりながら実施している。内容は、通所に関する相談、学齢児の長期休暇時や放課後支援の相談、進路相談、在宅児（者）への支援等。訪問等による療育の必要性のあるケースは、地域療育支援センター事業につなげている。

現在、障害者相談支援センター主催の磐田市相談連絡会、福田地区在宅者を対象としたケース検討会(福田チーム検討会)には、はまぼうとしては参加していない。

16. 中遠地域自立支援協議会

現在、磐田支部と袋井支部に分かれてさまざまな課題の検討をしている。課題としては、行動障害を伴う方の各事業所での状況と対応、特別支援学校卒業後の進路が未定の方の今後の地域での受け入れ、児童発達支援事業を利用している呼吸器装着児の就学に係る諸問題の検討（リフレッシュ事業利用等）等が行われた。この内、行動障害を伴う方及び卒業後の進路が未定の方に係る会議に出席し、積極的に発信するなど、その責務を果たした。

17. 重症心身障害児(者)の在宅支援に関する会議

これまでの重症心身障害児(者)の在宅支援については、中東遠圏域自立支援協議会重心部会の事務局として参加し活動してきた経緯がある。これは、あにまあとの活動がはまぼう内で行って

きたためである。平成30年5月にあにまあととして新たに場所を移動し開所したことにより、現在あにまあとが事務局として活動しているため、はまぼうとしての参加はなくなる。

また、今は中遠地域自立支援協議会地域生活支援部会の中で重症心身障害児(者)に関する話し合いが行われているが、これもはまぼうからあにまあとに引継ぎし、今後あにまあとを中心に重心部会として発足する予定である。

その他、静岡県が主催する医療を中心とした多職種連携研修の役割もあにまあとが担うことになる。但し、これまで関わってきた経緯もあることから、今年度リモートによる研修等に参加したが、今後のはまぼうからの参加は継続する。

さらに、浜松市肢体不自由児者父母の会等の家族や本人が参加する団体の総会及び活動及び、ゆうあいのさが主催する「県西部子どもの在宅支援ネットワーク協議会への参加は継続する。

2020年度 あにまあと活動報告

1. 在籍者の状況

あにまあと 契約者数

事業	月											
	2年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	3年 1	2	3
生活介護	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17	20
児童発達	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
放デイ	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	16

2. その他の利用状況

区分	月												合 計	
	2年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	3年 1	2	3		
特実 支習 等生	人 員	0	0	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4
	延日数	0	0	9	0	0	0	0	0	3	2	0	0	14
実研 習修 ・生	人 員	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	延日数	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	14
見 学 者	件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボテ ライ ンア	延人数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	特 記													

3. 活動の状況

施設全体について

5月で3年目を迎えた。R3年3月末現在で、生活介護20名・放課後等デイサービス16名・児童発達支援0名の契約数となっている。

利用率についても、生活介護の利用は1日10人程度、放課後等デイサービスについては1日3名程度の利用率になっている。

日中活動としては、『入浴』『クッキー作り』『紙工芸』『ふれあい体操』『リフレクソロジー』を中心に活動プログラムを提供し、『オルゴールセラピー』も不定期で2回ほど実施した。

行事としては、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見極めながら、『グループ外出』を行い、『クリスマス会』『新年会』など季節の行事も企画し、利用者の皆さんが楽しめる活動の提供を行いました。

施設内での活動が多くなってしまったが、活動内容を工夫し、『料理教室』を行ったり、『テイクアウトランチ』を注文して、皆で楽しむなど、コロナ過ならではの企画も行う事が出来た。

児童の支援についても、創作活動を中心に、トランポリンや音楽遊びなどを行い、余暇の充実を図ることができた。今年度は『遠足』は中止し、買い物に行くなど短時間での外出をして、普段とは違った活動を提供することができた。また、3月には2回目の卒園式も行う事ができ、富士に学校へ送り出すことができた。

4. 生活介護活動報告

①クッキー作り

利用者さんを中心にそれぞれ自分の出来る工程を担当し、施設内や法人内での販売を中心にを行った。利用者さんの活動ペースに合わせることが難しく忙しい時期もあったが、利用者さんにとっては無理なく活動することができた。

a. 生地作り工程

バター・砂糖の攪拌、鶏卵の攪拌、生地を練る作業を行う。バター・砂糖の攪拌と生地を練る作業は、材料をビニール袋に入れることで、その感触を楽しみながら作業することが出来た。

b. 型抜き・成型・焼く工程

成型は生地をラップに包みテーブルの上や手のひらで平らにするが、程よい厚みで出来るようになった。型抜きを自分の仕事として前向きに取り組む利用者さんの姿もみられたが、厚みにばらつきもあり注意を促しながら進めた。

c. 袋準備・袋詰め工程

シール貼り、クッキー・乾燥剤の袋詰め、袋綴じを流れ作業で行った。袋詰めは補助具を、袋綴じはシーラーを使用して、職員と一緒にを行った。袋綴じは職員の声掛けで確実に行うことが出来た。

透明な袋に飾りリボンは見た目にも良く好評であった。飾りリボンを作る作業ができる利用者さんがいて、仕事の幅が広がり喜びとなった様である。

②紙工芸

色彩を感じることの出来る作業を行うために折り染めを取り入れ、それをノート・鉛筆の製品にし、紙すきで作った葉とセットで販売。その他、利用者さんの連絡帳・B5版ノートやメモ帳を施設内のみで販売をした。

折り染めは個々の自由な感性で染めるため個性的な製品が出来上がった。ノート・鉛筆の糊付け作業は、利用者さんが一人で行うのは難しく、大半の人が介助や確認を必要としていた。

③ふれあい体操

毎週月・木曜日、理学療法士とスポーツプログラマーによる柔軟体操やマッサージ・触感覚運動・関節運動を行い、心身の緊張をほぐしリラクゼーションを促した。利用者さん個々の障がい程度に合わせた体操の仕方や注意点等を職員は教えてもらい対応した。

また、不定期でボランティアの訓練士の方にも来ていただき、リハビリの補助や体操などを行っていただけた。

④リフレクソロジー

毎週木曜日、1回に3人（一人約30分）リフレクソロジストによる足裏マッサージ（施術前には足浴を実施して足を温めておく）を受け、リラックスした時間を過ごす事ができた。足裏刺激が良い効果となっている。

⑤入浴支援

特殊浴槽にて1日3～4人の入浴を実施した。生活介護に通っている利用者さんのご希望を伺い、週2回程度入浴ができるように行っています。いろいろな香りの入浴剤なども使い、心地良い時間を過ごしていただくとともに、入浴時に全身の健康観察も行っています。

5. その他の活動

①朝・帰りのミーティング

毎日、利用者さんが交代で司会をして進行。出欠席の確認やその日の活動内容の確認をし、その日の反省・感想等を話してもらった。一日の活動を自分の意思で選択できる利用者さんが増えた。

②散歩・外気浴

出来るだけ外の空気に触れられるよう、体調に注意しながらはまぼう周辺の散歩・玄関前での外気浴を行った。散歩は全員が一緒に出掛けることは難しく、短時間の交代でおこなった。また長い時間外気にあたる疲れしてしまう利用者さんも居たため、散歩を短い距離で済ませ室内で待っている事もあった。又、歩ける利用者さんが車椅子を押すなど、他グループの利用者さんとの関わりもあり仲間意識の向上が見られた。

③足浴

冬季は車椅子利用者さんを中心に、足浴（場合によっては手浴）を多目に行い、体を温めると共に全身の緊張を和らげる様にした。他グループからの希望者もあり、リラックスした時間を過ごすことが出来た。

④レクリエーション

利用者さんから自分のやりたいものを聞き、職員が出した複数の選択肢の中から利用者さんが選んで行った。普段体を動かす機会が少ない人たちが多いため、ペットボトルボウリングやトランプ・すごろくゲームなど室内でも楽しめることを行った。音声を楽しむCD紙芝居も内容を毎回利用者さんに選んでもらい、リラックスした時間を過ごしながらか楽しむことが出来た。

⑤外出・納涼会・宿泊体験

新型コロナウイルス感染症拡大のため、納涼会や宿泊体験は中止とした。外出については、感染拡大の状況を考慮しながら、時期を見て計画し実施した。

障害児の外出については卒園児のみ外出し、全体の外出は中止とした。

⑥グループ外出

実施日	内 容 (行き先)	参加利用者	職員・ボラ
7月 3日 (金)	ららぽーと磐田 (買い物)	利 1名	職 1名
7月 17日 (金)	葵サンプル (食品サンプル作り)	利 2名	職 2名
7月 22日 (水)	オルゴールミュージアム	利 2名	職 2名
7月 30日 (木)	食事・買い物 (長坂養蜂場)	利 2名	職 2名
9月 23日 (水)	掛川花鳥園 (卒園外出)	利 1名	職 3名
10月 22日 (木)	ステンドグラス美術館 (掛川市)	利 2名	職 3名
10月 26日 (月)	掛川花鳥園	利 2名	職 3名
11月 5日 (木)	浜松楽器博物館	利 2名	職 2名
11月 13日 (金)	うなぎパイファクトリー	利 2名	職 2名

⑦施設内行事

日付	内容
4月1日(水)	年度初めの会
5月21日(木)	開所記念の会
12月17日(木)	クリスマス会
1月6日(水)	新年会
1月13日(水)	成人を祝う会
6/16・12/16 計2回	オルゴールセラピー
3月4日(木)	年度末お楽しみ会
3月10日(水)	卒園式(鈴木颯太さん)

6. 土曜日レクリエーション(のんびりし隊)

土曜日の通所日を利用して、レクリエーション的活動を行った。

身体を動かしたり、創作的な活動など、参加者全員で一緒に楽しめる企画が多く、利用者さんの笑顔や笑い声が印象的であった。

日付	内容	日付	内容
4/4	今後の計画	12/26	反省と次月の予定決め
5/23	ドライブ&DVD	1/9	吉本新喜劇DVD
7/4	志村の会(DVD)すいか割り	1/16	初詣(ドライブ)
7/25	タコテラづくり	1/30	凧あげ/スイートポテト作り
8/1	ドライブ&マッサージ	2/13	バレンタインチョコづくり
8/8	水遊び	2/27	反省&テイクアウトランチ
9/19	反省と次月の予定決め		
9/26	ドライブ&DVD		
10/31	ハロウィンパーティー		
11/7	ボッチャ大会		
11/21	ドライブ&映画鑑賞		
11/28	テイクアウトランチ		

7. 障害児通所支援活動報告

(1)コミュニケーション支援

①音楽遊び

こども達が好む音楽(アニメソング、童謡等)を中心に、音楽鑑賞を行った。リズムに合わせて、手拍子をしたり、身体を揺らしたりする姿が見られた。今後は、興味の幅をひろげられるように、様々な音楽を取り入れていく。

②感覚遊び

積み木や形合わせの玩具を使い、微細運動を行った。継続して行うことで、バランス・形をスムーズに認識できるようになってきた。

バランスボールを使っの、身体全体を動かす遊びを行った。不安定な体勢になることに慣れず、苦手なこどももいた。興味の示し具合を見ながら、今後も誘い掛けを継続していく。

③読本

色彩豊かな本、ストーリーの分かり易い本を中心に、読み聞かせを行った。

外出が可能な時には、市立図書館に出掛けて、普段なかなか読むことのできない本に触れる機会を設けることができた。

(2) 社会化

①統合保育

友達と同じ時間を過ごすことで、自分の気持ち（嬉しいこと、嫌なことなど）を言葉だけではなく、仕草や表情によって伝えられるようになってきたこどももいる。今後は、こども達が気持ちを表出しやすいよう、職員が感じ取れるよう活動をしていく。

②外出

散歩（外気浴を含め）は積極的に行うことができた。天気や体調を考慮して、時間等は無理なく行えた。

多人数での外出や、社会体験としての外出は実施することができなかった。

(3) 身体機能向上

ふれあい体操やリフレクソロジーにおいては、普段なかなか動かすことのない関節や、足裏のマッサージを受けることで、良い刺激になっています。

スヌーズレンにおいては、五感を刺激しながらも、リラックスできる環境を作り、普段過敏に反応してしまっている感覚を休ませられるように促しました。

[2] その他

体調管理

医療ケアの必要なこどもが多く、体調を崩しやすいことも多いため、家庭と連絡を密に取りながら、体調管理には気を付けた。

欠席時には、様子伺いを行った。

8. 行事・バザー報告

第1号議案⑤

あにまあと 2020年度年間行事・バザー予定表

2020/4/1

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	年度始めの会(1)	桃井						
5	開所記念日(7) はまべ会新旧役員会 はまべ会総会 (6月の可能性あり)	友梨	○ ○		ヤマハジャンボリー()	天野	○	○
6					磐田北高校文化祭()		○	呼びかけ
7	宿泊体験(10~11・17~18)	三室						
8	あにまあと納涼会(8) 地域交流会バザー値付け()	西家・下條・敷田	○					
9	地域交流会前日準備(4) 地域交流会(5)	実行委員会(後藤・金原) 実行委員会(後藤・金原)	○ ○	○	地域交流会バザー(5)			○
10	大掃除(3) あにまあと外出(9)	環境美化委員会 早川・真由						
11					ぬくまるマーケット() ふくでふれあいまつり() 光る子まつり()	(検討) 天野 金原	○ ○	呼びかけ ○ ○
12	ふれあい作品展(~) クリスマス会(18) ヤマハ労連観劇()	敷田 友梨・久保・古田 久保		呼びかけ				
1	新年会・成人を祝う会(8)	真由・西家						
2								
3	はまべ会役員会 はまべ会 卒園式(17) 年度納めの会(29)	後藤・桃井 村松	○ ○					

※予定にないバザー等がある場合は、その都度呼びかけをさせていただきます。

9. 環境美化委員会

- (1) 必要に応じて委員会を開き、情報の共有を図ることが出来た。日頃の環境美化については、職員一人一人が意識して取り組めるよう、委員を中心に呼びかけをした。
毎日の清掃については、職員一人一人が美化につとめ、協力しながら行う事が出来ていた。
- (2) 大掃除については、10月3日（土曜日）の閉所日に1回実施し、多くの保護者にご協力いただき、ワックスがけ等を中心に実施することができた。
- (3) ゴミの分別については、徹底されている。

10. 安全委員会

- (1)利用者の方の安全確保
 - ・委員会内での話し合い、事故防止・再発防止策検証チェックを行い、事故防止に努めるよう情報収集、安全管理体制の見直しを行った。
 - ・「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」の集計・活用。
- (2)防災
 - ・避難訓練を毎月1回、避難訓練計画に合わせて実施。
 - ・法人全体で防災内部研修の実施や緊急時安否確認名簿作成・配布を行った。
 - ・H23年度より、各施設・事業所の防火管理者による防災担当者会議を開催し、大規模災害時の対応等について協議を継続している。
 - ・安否確認の方法として、『マチコミメール』の活用を徹底している。
- (3)施設設備（環境）の保全管理
 - ・設備自主点検を適宜実施。
不具合箇所 … 業者に依頼し、修理を行った。入浴装置・壁の亀裂・エアコンの不具合等
- (4)安全運転管理
 - ・春、秋の安全運転管理協会の街頭指導に参加。
 - ・安全運転管理協会の事務局だよりの連絡。
- (5)緊急事態への対応
 - ・緊急事態（車両等の事故）に対しては、各職員がマニュアルに従い、速やかに対応出来ていた。
 - ・今後も、マニュアルの検討を重ね、分かり易く対応しやすいものにしていく。

11. 生活・保健衛生委員会

- (1)健康診断及び記録について
健康診断は春と秋に実施。検査当日の欠席者については、レントゲン撮影は個々にかかりつけの病院等へ行き全員実施した。検尿・検便は随時施設で行い、保菌検査は年2回に実施した。
健康診断の結果については、嘱託医に確認・捺印を頂き各家庭への報告をした。必要に応じて家庭への電話連絡も行った。（通院については家庭にお任せした。）
記録については、個人表、一覧表、嘱託医訪問記録、検査結果等、随時記入するようにした。
服薬は保護者に確認後マニュアルを作成して把握し、服薬ミスが無いように管理した。処方箋は昼食以外の物も提出して頂き、万が一の時に把握できるようにした。
- (2)体重測定について
毎月月初めに実施した。結果は、体重表（カード）に記入し、家庭に確認して頂いた。測定の結果を健康チェックの目安とし、食事量を加減したり通院時に持参する家庭もあった。
- (3)機関誌について
年に4回法人全体で保健だよりを発行した。新型コロナウイルス感染症・インフルエンザについては、緊急のお知らせ（情報公開や予防法）等を各家庭に配布し、注意を呼びかけた。

(4)衛生面について

感染症が流行する前に、予防接種を実施し、勤務中も含めて職員はマスクの着用を徹底した。

毎日の生活については、ウィルバスを噴霧して除菌に努め、排泄介助等には、手袋の着用を努めた。

(5)病気予防について

食中毒や風邪・インフルエンザの予防のため外から帰った時や、食事の前にはうがい・手洗いの声掛け・マスク着用を促した。そのため職員が率先して行なう姿勢が多くみられた。

ノロウイルスに関して汚物処理のための消毒薬(次亜塩素酸泡タイプ)の留置、週一回施設内の消毒薬での拭き掃除を徹底した。

部屋の換気や加湿器の使用を心がけ衛生面に注意した。

感染症についての職員会議にて伝え、研修時には対応マニュアルを用いて、実施研修を行い施設内での感染予防を徹底した

(5)-1新型コロナウイルス感染症対策について

コロナウイルス感染症対策として、手指消毒とマスクの着用、室内消毒(毎日)を徹底している。ご家庭には毎日検温と、体調の管理をお願いした。不必要時以外の施設内への立ち入りを制限し、室内へ入る際は検温を実施している。

(6)防虫防鼠について

環境美化委員会にて大掃除やバルサン実施。

(7)日用品・医薬品について

トイレットペーパーやボックスティッシュ等、在庫確認の上、随時発注するようにした。医薬品については、使用期限の確認と在庫チェックの上、必要に応じて発注・補充した。

個人で昼に服薬がある利用者さんについては、服用の確認と声掛けを行った。

(8)歯磨き・うがいについて

各自で食後の歯磨きやうがいを行っていたが、必要な利用者さんに対しては全面介助や仕上げ磨きを行った。うがいも上手に出来るように促したが、うがいが難しい利用者さんに対しては、お茶や水を飲むことで口腔内の清潔に努めた。

(9)歯科検診について

訪問歯科による歯科検診を全利用者さん対象に実施し、結果をご家庭へ通知した。

12. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織(人権擁護・虐待防止委員会)を設置。今年度も研修担当者との協力をし、合同研修会にて利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知を図った。また、虐待防止チェックリストは、10月と3月(半期に一度)に実施し、職員一人ひとりが自己意識を高められるようにした。

会議では、合同研修会での内容についての話し合いを行った。利用者さんの安心、安全と人権擁護の観点から、適正な支援が提供され、利用者さんの自己実現と社会参加のための支援を妨げることのないよう、定期的にまたは適宜、委員会を開催し、虐待の防止に努めていく。

また、利用者さんの呼称(呼び方)を「さん付け」に徹底できるように、全職員に呼び掛けを行っている。今後も研修会、会議の中で職員の意識の向上を図るとともに、苦情解決担当者や安全委員会、研修担当者等と連携しながら具体的な活動を計画し、組織として質の高い支援を提供できるように努めていく。

13. 内部研修

令和2年度は、法人全体研修が実施できなかったが、事業所内研修(1日研修)を1回実施し、職員会議時に10分程度のミニ研修を実施した。

2020年度 そるとぽっと活動報告

1. 在籍者の状況

2020年度の定員20名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況は次の通り

区分	月	20年										21年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
退所		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末 在籍	男	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21		
	女	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	計	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23		

【在籍者障害支援区分】 区分6→4名、区分5→12名、区分4→6名、区分3→1名(年度末時点)

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	20年										21年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末 在籍	男	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

2. その他の利用状況

項目	月	19年										20年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
特実 支習 等生	人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	延日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
実研 習修 生	人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	延日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
見 学 者	件数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	人員	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
ポテ ライ ンア	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	特記														

※新型コロナウイルス感染予防のため、例年のような利用はほとんど無かった。

3. 活動の状況

23名の利用者さんと地域支援1名の利用があった。一日あたりの年間平均利用者数は20.5人で今年度も多くの利用を頂いた。新型コロナウイルス対策で全体行事や宿泊体験、個別体験といった利用者さんが毎年楽しみにしていた活動が中止となり影響が出ないか心配したが、利用者さんが何度も自分自身に言い聞かせたり我慢をしている様子が伺われた。これらの活動の代わりにグループ単位や少人数での室内レクリエーションや外出などの活動を実施した。

年度途中で男性職員が退職したが人材不足から補充が間に合わず、年度末まで他施設から代替職員の応援を頂いた。安定した支援体制で臨めなかった事と新型コロナウイルス対策による活動制限とが相まって、なかなか踏み込んだ支援を提供することが出来なかった事が反省点だった。

〔作業活動について〕

① シートカバーセット（大洋工業）

剥がす、丸める、畳む、チャックの空け閉め、袋に入れる等の工程があり、マンツーマンで取り組むことで障がいの重い利用者さんでも行うことが出来た。

② LDキャップ（ブリヂストン）

根気の要る作業だが、提供量が減少傾向にあるため得意な利用者さんを中心に取り組んだ。

③ 割箸袋入れ（藤本商会）

紙のさやに割箸を入れる、ビニール袋に入れる、爪楊枝を入れる、ビニール袋を閉じる、おしぼりをポケットに差しこむ、という工程をそれぞれ分担して行い、安定した状況で進めることが出来た。単価が下がり残念だった。

④ ポスティング（アドポスティング）

年度途中、継続することが難しく他施設に紹介して止めることにした。

⑤ 空き缶つぶし

外に出て身体を動かす作業なので、場面の切替や気分転換にも行った。

⑥ ポストカード作り（自主製品）

利用者さんの手描きの作品をスキャンしてクリスマスカードを作成。

⑦ ハンガーモップ作り（自主製品）

ワイヤーハンガーに短く切った毛糸をくくりつけ、カラフルで表情豊かな「ハンガーモップ」を作成。

⑧ エコビーズアクセサリ作り（自主製品）

利用者さんが色付けしたペットボトルを、オーブンで焼いてビーズを作り、ブレスレットやバレッタやヘアピン等を作った。

⑨ お茶注文販売

新茶、水出し煎茶、年末年始のシーズンに注文販売を行った。

〔その他の活動について〕

① 施設行事

新型コロナウイルス感染予防のため以下の行事等は中止した。クリスマス会と新年を祝う会はグループ単位で実施した。

・宿泊体験、・ファミリーウォーキング、・流しそうめん、・ヤマハ労連チャリティー公演

② 個別体験 新型コロナウイルス感染予防のため中止

③ 料理作り グループ活動等の中で、焼き肉、恵方巻、どら焼き、パフェ、かき氷等を作った。

④ その他の余暇活動

絵馬や季節の工作を作り家庭に持ち帰ったり、壁面装飾を一緒に製作して施設内に掲示した。磐田市ふれあい作品展に個人と共同製作で参加。体力作りも兼ね外出や散歩、暑さ対策で水遊びを行った。「ともしびコンサート」は実施されなかった。

⑤ 避難訓練

毎月、地震または火災を想定して避難訓練を実施、11月には総合防災訓練を行った。今年度は玄関前から駐車場まで移動して避難した。消防署への通報訓練も取り入れて行った。

そるとぽっと 2020年度年間行事・バザー

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ポラ			利用者	はまべ会
4	年度始めの会・歓迎会 開所記念日(1)							
5								
6	はまべ会役員会(11)		○					
7								
8								
9								
10								
11	堤防草刈り		○					
12	ふれあい作品展(12/2~10) クリスマス会	各G						
1	新年を祝う会 個別面談	各G 各G	○					
2	個別面談	各G	○					
3	はまべ会役員会(18)		○					
地域交流会・施設行事、ともしびコンサート(はまぼう)は、新型コロナウイルス感染予防のため中止					iプラザ 喫茶ペンギン委託販売			

4. グループ活動報告

せさみグループ (男性7名、女性2名)

グループ職員の入れ替わりがあったことや、新型コロナウイルス感染予防対策で今まで行われていた施設行事等が中止になってしまったが、利用者のみなさんは比較的落ち着いて過ごせた。

① 作業活動

シートカバーセットの作業を中心に行った。材料の入荷は安定していて、一人一人状況に応じた作業工程を進めることが出来た。時々依頼のあるポスティングは散歩も兼ねて行ったが、継続が難しくなり年度途中で中止した。また、作業の一環として資源ゴミの運搬や納品などを行った。

② その他の活動

毎週木曜日の午後、利用者さんと一緒に次週の予定を立てるミーティングを行い、作業活動以外の外出先やグループ活動の内容を決めた。

③ グループ活動

5月に獅子ヶ鼻公園でウォーキング、7月にホットプレートを使いバーベキュー、10月に施設内でハロウィンパーティー、12月にクリスマス会、2月に豆まき会で恵方巻代わりにミニアメリカンドックを作って食べ、3月にひな祭りでパフェづくりを楽しんだ。

ばせりグループ (男性9名)

環境の変化に伴う戸惑いや不安を上手く伝えることが苦手な為に、様々な行動(自傷や他害行為・こだわりなど)となって現れてしまう人が多く、訴えを受け止め聴く態度、応える姿勢で接するよう努めていきました。職員とおしゃべりしたり、からかって面白がっている場面があったり、誰にでも要求を伝えることが出来るなど、安心出来る関係作りができてきたように感じています。

パーティションで室内を間仕切り、個々が安心して過ごせる空間作りを行いました。毎日9名の利用者さんが活動を共にすることでそれぞれが影響しあい、利用者さんの状況によって他害行為や自傷行為に繋がってしまうことが見られるようになった為、一時的に相談室等を利用して活動場所を1階と2階に分けました。時間や活動内容によっても場所の移動ができ、お互いの影響を最小限にしながら生活する姿が見られるようになりました。

日中活動は作業を中心とし、午前は作業、午後は曜日毎に日課を決め作業や外出、自由時間としましたが、その日の状況に応じて日課の変更を行ないました。変化に戸惑い不安定になる場面もありましたが、少しずつ変化を取り入れていくことで固執や拘りが減って行きました。日常生活が過ごしやすくなるような工夫や提案を行い、それぞれが仲間意識をもちながら、人との関わりを大切に安心できる居心地のいい場でありたいと思いました。

① 作業活動

主な作業として割り箸、ブリヂストンのLDキャップ分離作業、シートカバー作業、自主製品作り、ポステイングを行いました。作業場所や作業工程の工夫などで安定してできるよう配慮しました。ポステイングは十分な職員体制が確保できず10月以降は取りやめました。

外部作業としてベッドメイキングにも1名の利用者さんが継続して参加していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、訪問することができませんでした。

② その他の活動

週2回、午後に外出し散歩等で身体を動かす時間をつくりました。昨年に引き続き、夏季の暑さ対策の為、ビニールプールに水を溜め水遊びを行いました。それぞれに楽しめている姿がみられました。

磐田市作品展には、各人が色塗りをした干支の作品を作って出品しました。

コロナ禍の為、大勢が集まる全体行事でそれぞれの状況に配慮し参加できる工夫をしました。大勢が集まる場所が苦手な利用者さんも、穏やかに参加することができました。

③ グループ活動

職員のお別れ会やお疲れ様会を行い、お弁当をとって頂きました。

みんとグループ (男性5名)

少人数で作業棟の静かな環境での活動ができる場所となっています。新しい利用者さん1名を迎え5名で活動しました。

少人数で細かな対応ができる半面、刺激が少なく物足りなさを感じることもあるため、活動内容によってはせさみグループに参加したり、せさみグループの利用者さんを受け入れたりして、程よい距離感を保ちながら協力しながら進めました。人との関わりをもつよう心掛けました。

① 作業活動

主な作業として割り箸、シートカバー作業を中心に行いました。気持ちの安定を優先し作業活動はその手段と捉え、作業量や作業時間はそれぞれのペースに合わせて行いました。予告なしに作業内容を変更しても受け入れられるようになってきました。

② その他の活動

週2日、午後に外出し散歩等で体を動かす機会をつくりました。ともしびコンサートは、新型コロナウイルス感染予防対策で中止になりましたが、毎回楽しんでいた方も中止を受け入れることができました。自由時間等に各自で音楽を楽しんでいました。

③ グループ活動

- 5月:新しい利用者んの歓迎会。
- 7月:焼き肉パーティー(せさみグループ合同)
- 10月:ハロウィンパーティー(//)
- 12月:忘年会とクリスマス会
- 2月:恵方巻作り
- 3月:浜名湖ガーデンパークに外出

5. 委員会活動

① 保健委員会

家庭やグループホームと連絡を取りながら、利用者さんの日々の体調を見守った。新型コロナウイルス感染予防対策として、①ご家庭と施設での活動時間内の検温。②利用者さんの手指消毒の声掛けや介助。③施設内と送迎車内の消毒を毎日実施した。

今年度は主治医の変更に伴い健康診断の調整が難しく、レントゲン検査のみを実施した。また歯科医師会による歯科検診は希望者のみ実施した。

毎月一回、体重測定を実施し健康管理とともに体重の変化を把握した。

② 環境委員会

新型コロナウイルス感染予防対策として、ご家族参加の大掃除は中止としました。駐車場と堤防の草刈りはご家族に協力してもらい実施しました。

ごみの分別は、週に2日それぞれのごみの回収日に合わせ、また古紙やペットボトルについては活動中に利用者さんと一緒に運搬して処分しました。

ごみのない綺麗な状態を維持できるよう、毎日活動終了後に部屋とトイレの掃除を行いました。

水曜の午後には感染予防の為、手すり・机・椅子等利用者さんが手に触れそうなどの消毒を行いました。また、車内消毒も送迎終了後に毎日行いました。

③ 安全委員会

事故報告の内容を見ると、利用者さんがパニックを起こし他害行為や器物破損につながる事例が目立った。また利用者さんの体力低下に伴う介助リスクが高まった事や、職員による過信や連携不足に起因する事故もあった。毎年同じ利用者さんの名前が挙がる傾向があり、配慮をしても偶発的に起きてしまう場合があるので、常に意識を高く持つ必要がある。

年度末より作業棟工事が始まり、工事車両の出入りや利用者さんの公用車への移動など危険な状況があるため、職員間で事故のないように毎朝呼びかけを行っている。

昨年に続き、定期的に避難訓練と総合防災訓練(11月)を実施した。防災担当者会議は定期的な開催が出来なかった。またマチコミの利用者さんの登録も実現出来なかったので、次年度の課題となった。10月と3月には設備自主検査を実施。

[ヒヤリハット] 3件 内訳:利用者… 怪我(2)、転倒(1)

[事 故] 11件 内訳:利用者… 怪我(7)、物損(2)、転落(1)

職 員… 物損(1)

6. 地域社会との関係

広報活動として、「ふくはまの風」を法人施設と協力して発行した。

新型コロナウイルスの感染対策のため、iプラザ販売以外の各バザーは中止になってしまった。日常的には外出先や近隣を散策して地域の方との挨拶を積極的に行なった。

磐田市東地区の民生委員・児童委員さんをはじめボランティアさんの受け入れも新型コロナ

ウィルスの感染対策のため受け入れは無く、磐田北高等学校の介護実習や城山中学校と福田中学校の福祉体験の生徒さんの受け入れも同様に行わなかった。

地元の方や大勢のボランティアさんのご協力をいただき実施してきた来た「地域交流会」も新型コロナウイルスの感染対策のため中止となってしまった。

7. 家庭との関係

連絡ノートに施設と家庭の様子を記入して日々の情報交換を行った。必要に応じて電話連絡や自宅を訪問し様子伺いをした。個別支援計画作成時には全ての家庭と面談を実施し、また個々に家庭からの相談を受け面談を実施した。

今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、地域交流会、流しそうめん、ファミリーウォーキング、大掃除、活動参観・懇談会は中止した。11月に施設裏側の堤防草刈りの協力をお願いした。

8. 苦情解決体制

苦情受付はなかったが、「こんな一言聞きました報告書」として1件受け付けた。

〈内容〉退職後の職員補充が間に合っていなかった事は(応援職員でしのいでいた)、利用者さんがパニックを起こし怪我を負ってしまった要因の一つではないか。早く職員が採用される事を願っています。→謝罪に伺い、前向きに対策を講じている旨説明させて頂く。常に謙虚な気持ちでご家族や地域の声に耳を傾ける姿勢で取り組みたい。

9. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、事業所内虐待を未然に防ぐために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織(人権擁護・虐待防止委員会)を設置。今年度は新型コロナウイルス感染予防対策を取りつつ法人内合同会議を行い施設間で連携して進めた。全職員対象に「虐待防止チェックリスト」を実施し、支援の振り返りをするとともに、人権擁護と虐待防止についての意識向上を図った。集計結果は各施設で回覧し、職員会議で報告した。

また、毎月の職員会議で、職員一人ひとりが自分の支援を振り返り発表する時間を設けたり、気が緩まないように朝のミーティングで意識を高めた。今後も組織として質の高い支援を提供できるよう努めていく。

10. 内部研修

職員の専門知識の獲得と技術の研鑽は質の高い支援を行う上でとても大切なことです。今年度は新型コロナウイルス感染予防対策を取りつつ法人内合同会議を行い施設間で連携して進めた。職員の自己評価の内容を検討し、各自で立てた目標を振り返る形に変更して実施した。また、利用者さん(家族)と職員を対象に事業所評価を新たに実施した。職員合同研修は、今年度新型コロナウイルスの感染対策上中止とし、外部研修は徐々にリモートにより実施し始めた。

その他、職員会議の中で文献等の読み合せや出張報告を行った。4回

日付	内部研修内容	担当者
4/14	研修担当者会議	研修担当
7/7	研修担当者会議	研修担当
9/15	研修担当者会議	研修担当
11/6	新任職員研修	各管理者
1/14	研修担当者会議	研修担当

11. 地域生活支援

地域生活支援事業、ライフサポート事業、福祉有償運送を利用して、施設利用時間前後の送迎やサービス終了後の延長時間や休日に支援を行った。ご家族の仕事の都合により15:30以降の支援利用方や定期的な日曜祝祭日の外出支援を希望される方、行動援護のサービス利用に合わせて福祉有償運送を利用する方もいる。

12. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

相談事業所や市町の担当者と連携を図りながら、利用者さんのご家族や地域の方から相談を受け付けた。内容は、家庭環境の変化に伴い在宅生活を支えるために必要となった各支援についてや、特別支援学校卒業後の進路等について相談があった。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

13. 中遠地域自立支援協議会(磐田市、袋井市)

磐田支部地域支援部会として参加した。そるとぼつとは自閉症等在宅支援検討会に所属していたが、引き続き地域支援部会の中で協力して行くことになった。昨年度、行動障害を伴う自閉症の人たちの支援上の難しさやそれに見合った支援区分が出にくいといった内容を市の職員とともに確認してきたが、状況は引き続き変わっておらず、特別支援学校の進路面でも課題が浮き彫りになっている。また、同じ地域で限られたサービスを共有している袋井市と情報交換が出来なかったが、事業所間レベルでは情報や課題について共有してきた。

2020年度 松ぼっくり活動報告

1. 在籍者の状況

2020年度の定員40名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

区分	月	2020												合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	2021			
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
月末 在籍	男	34	34	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	
	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
	計	44	44	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	2020												合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	2021			
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	計	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	

2. その他の利用状況

項目	月	2020												合計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	2021				
特実 支習 等生	人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	延日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6
実研 習修 ・生	人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
見 学 者	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4
ポテ ライ ンア	延人数	4	1	7	8	6	4	5	10	6	2	3	5	61	
	特記														

3. 活動の状況

今年度は、コロナ禍のために各グループで予定していた活動が行えず、大幅な変更となった。当初からその変化に追いつけず、様々な要望や思いが噴出する中でスタートとなった。とりわけ個別外出や宿泊体験の中止は大きな変更であり、年度末までその影響が出ているのではないかと思われる方々もいて、あらためて日頃の活動や様々な人との交流が大切なものとして位置づけられていることを感じた年となった。

地域交流会をはじめ全体行事が中止となり、Wish、スマイル、ビジョン、樹の4グループでの活動を大事にして、感染予防に気をつけながら、時にはグループ間で交流しながら、できる限り楽しい経験になるように心がけて過ごしてきた。

仕事については、コロナ禍により、(有)フスマ商会、コーケン工業(株)といった企業内での仕事が中止になったり、仕事量が減少したりしたが、企業側の皆様のご理解と協力により、なんとか1年間続けて仕事を行うことが出来た。コロナ禍の折、施設側の現状を率直にお話して、企業の皆様にとっても最善の方向性を探りながら過ごした1年だった。又、外部作業の1つであるベッドメイキングについては、「さくらの苑」さんは休止だったが、於保老健センターは年度の後半から再開することができた。その他、企業からの内職は、工場の稼働状態により全体の7～8割程度の仕事量となり作業の収入面では2～3割減という状況だった。

4. グループ活動報告

Wish

心地よい雰囲気を作り、利用者さん一人一人が自分らしさを表現しやすい環境を整えてきた。さまざまな活動を通して、いろいろな人と触れ合う機会を持ちながら、自分の思い、相手の思いを伝え合う機会を大切にしてきた。

① 作業

本人が見通しを持って気持ち良く、仕事に取り組みやすいような環境を整えてきた。また、一人一人の様子に合わせ、作業方法や作業量を工夫してきた。缶つぶしは新型コロナウイルスの影響も踏まえて、衛生面を考慮し、軍手に加えて使い捨てのビニール手袋も使用した。その上で缶つぶしの工程を減らし、新しくバリ取りの仕事にチャレンジし始めている。

○アルミ缶/回収・缶つぶし・運搬（三光）

○ふすま梱包材組立て作業/週1～5回（(有)静岡フスマ商会）

○バリ取り（三和産業）

○リングはめ（コーケン工業）

②午後の活動

午後の活動は外に出て、健康作りと気分転換を図る内容を多く取り入れた。地域の公園や施設に出掛け、ウォーキングなどをしてそれぞれに合わせて無理なく身体を動かしてきた。また、外出を通じ、地域の方や他施設の方との交流や自然との触れ合いを楽しむことができた。

季節ごとの行事を他グループと協力しながら、利用者さんも含めて一緒に計画、準備をした。定期的に活動を行なう事で、視野も広がり、楽しみのバリエーションも増えた。また、今までこういった活動を苦手としていた方も少しずつ慣れて参加できている。

【グループ活動】

活動の種類	内 容
ミニ運動会	施設で実施できるように内容を工夫。玉入れやパン食い競争など行った。(樹グループと合同)
室内ゲーム	ボールを使ったゲームを計画準備。密にならないように工夫しながら他グループの方も招待した。(樹グループと合同)
ハロウィン	紙袋をデコレーションするワークショップなど行った。その袋を持ってトリック・オア・トリートを楽しんだ。 (樹グループと合同)
クリスマス会	12月松ぼっくりにてケーキ、お祝いを行う。
初詣	小国神社にて参拝、ことまち横丁にて食事
年度納めの会	1年間の振り返り3月松ぼっくりにて行う。

<個別外出>

コロナ禍のため、今年度は実施せず。

<宿泊体験>

コロナ禍のため、今年度は実施せず。

スマイル

利用者さんひとりひとりにとって1日の見通しが立ちやすいカリキュラムを組むことで、安心して活動に参加できるように環境を整えた。

① 作 業

利用者さんひとりひとりに合わせて作業を組み合わせた。また、集中して作業を行える環境を整えていく中で利用者さんのエンパワーメントを高めていけるよう配慮した。様々な作業に取り組む中で個々のスキルアップ、能力の高さを改めて実感できた。

○ブリヂストン (LD塗装下キャップ清掃作業、LD下パック清掃作業)

○コーケン工業 (リングはめ)

○大洋工業 (保護カバーの袋詰め)

○缶回収 (4箇所) ※とんぼ茶屋→R2.2月で終了。

○三和産業 (バリ取り) R2.11月～

②午後の活動

午後は、「外出」を基本とし、ひとりひとりがリフレッシュできるよう心がけた。四季を感じながら身体を動かす良い機会となった。水曜日の午後は室内活動ができるよう日課を組み、パソコンを使って音楽を楽しんだり、ゆっくり過ごす方もいた。今後も余暇活動を取り入れて充実させていきたい。

③その他の活動

○ グループ外出・活動

新型コロナウイルスの影響を受け、外出先や内容を検討しながら実施した。月2回の「おやつ日」やお菓子作りは利用者さんも楽しみにしているため、来年度も計画していきたい。

時期	内 容	時期	内 容
6月	パフェ作り	12月	クリスマスケーキ&プレゼント購入
1月	おしる粉づくり (白玉団子入り)	2月	バレンタインチョコ購入
3月	「かわせみ公園お花見」& マクドナルドテイクアウト	3月	年度納めのプチパーティー (ケーキテイクアウト)

○ 個別外出

※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

○ 宿泊体験

※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ビジョン

①作 業

【内職、仕事について】

- ・(有)寺田電子産業 (袋入れ、ホチキス止め作業)
- ・コーケン工業 (リングはめの仕事)
- ・静岡フスマ商会 (梱包用のダンボール作り)
- ・於保老健センター (ベッドメイキングの仕事)
- ・缶回収

※作業後の時間に軽体操やストレッチをしたり、ゆっくりと新聞を読んだりできるようなリラックスする時間を設けるように心掛けました。

②午後の活動について

午前に引き続き内職など仕事をする人もあれば、公園で身体を動かしたり、図書館でゆっくりと音楽を聴いたり、新聞を読んだりして、リフレッシュする人もありました。室内活動もカラオケで歌ったり、卓球やキャッチボールで身体を動かしたり、かるたやトランプなどのゲームを楽しみました。また、パソコンを利用して、動画の視聴をすることもありました。活動内容について皆と相談し、お互いに気持ちに折り合いをつけながら、楽しく活動に参加できるように工夫してきました。

③その他の活動について

利用者さんの思いを大切にしながら下記のように行事を行ってきました。

- ・季節の行事…コロナウイルスの感染予防の為、中止させていただいた行事が多い中、ハロウィン、クリスマスの昼食会、節分豆まき、年度納めの会は計画し実施する事が出来ました。

【グループ活動】

活動の種類	内 容
ハロウィン	ハンバーガー、ドーナツのテイクアウトを利用し会食
クリスマスパーティー	ケーキ、ピザ、チキンなどテイクアウトを利用し会食
新年の昼食会	お弁当、大判焼きのテイクアウトを利用し会食
年度納めの会	お弁当、ケーキのテイクアウトを利用し会食

<個別外出>

コロナ禍のため、今年度は実施せず。

<宿泊体験>

コロナ禍のため、今年度は実施せず。

樹G

環境が大きく変化し思うように活動が出来ない状況なので、できるだけのんびり過ごす事が出来るように心がけて支援してきた。

作業面では、朝の会等で取り組む作業を選び、目標を持てるよう工夫してきた。目標を持つことで、本人自身が責任を持つ事ができ、また充実しているように感じた。

活動面も、朝の会等で話し合い午後の活動などを決めた。朝に決める事で、午後の活動に取り組み易いようにしてきた。リラックスできる場になれるよう一緒に活動するメンバー、人数等も考え取り組みをした。散歩・卓球・ペットボトルボーリング・ダンスなどの簡単なスポーツも楽しく参加できるように行った。身体的な事も考え、継続して仕事前に簡単なヨガ（体操）も取り入れ、生活のリズムとしてきた。また、全員・小人数で活動する事を交互に行う事で、他の利用者さんに合わせる力を持つことが出来、自分の気持ちを言い合える関係作りが出来るとうめざしてきた。

① 作 業

落ち着いて気持ちよく作業に取り組めるよう、環境を整え、作業への意識、意欲が継続的に持てるようにした。

- ・ 株コーケン工業（リングはめ作業）
- ・ (有)寺田電子産業（袋入れ作業。）
- ・ 公園清掃（ふるさと公園）
- ・ (有)静岡ふすま商会（ふすまの組み立て・出荷用の箱・出荷時の衝撃緩和材作り）
- ・ 自主製品（連絡ノート、ノート、縫製品等）

②その他の活動

<午後の活動>

行事については、利用者さんとの話し合いで、出し物の際に他のグループを誘うことで、行事の提供者にもなり、その内容を自分たちで考え、その準備として午後の活動時間に必要なものを制作したり、話し合ったりしてきた。（肝試し、プチ運動会、ハロウィン等）

又、例年通り意見を出し合い、午後の活動はみんな決めていく。（内容：樹ピック(オリンピックにちなんで)、ドライブ、買い物、散歩、カラオケ、DVD鑑賞、おやつ作り、パソコン、音楽鑑賞、w i i スポーツ、サッカー、風船バレー、卓球、ペットボトルボーリング、リレー競争等）

<グループ外出>

グループ全体での外出は実施せず。

<グループ活動>

活動の種類	内 容
肝試し（8月）	お化け屋敷で各メンバーが様々な役割を持ち、脅かしたり楽しみを提供する側も経験。その後 Wish グループでのゲームに参加する。グループ間で交流しながら、お互いに楽しみを提供し合い、一緒に楽しむ。
レクリエーション（9月、10月）	準備の段階から利用者さんが意見を出し合い、企画する。グループ間でゲームやレクリエーションを出し合い、お互いに楽しむ。

スパゲティの日&パスタ、ピザの日（10月、11月）	利用者さんの「スパゲティでも食べたいな」という何気ない提案から日にちを決めて、その日はテイクアウトで頼んで食べる機会とした。
クリスマス会（12月）	準備の段階から利用者さんが意見を出し合い、企画する。ケンタッキーや、ケーキ、ドミノピザ、テイクアウトで食事、その後ゲームをして楽しむ。1人分ずつ分けて食べる形。
年度納めの会（3月）	コロナウィルスの感染にも配慮し、年度のまとめの会を簡単に行った。ボランティアさんは呼ばずに、後日、感謝を伝える品物（自主製品）を渡した。

<個別外出>

コロナ禍のため、今年度は実施せず。

<宿泊体験>

コロナ禍のため、今年度は実施せず。

5. 音楽活動

【ともしびコンサート】

コロナ禍のため、今年度は実施せず。

6. 環境美化委員会

◎大掃除・・・今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い未実施。

10月31日（土）スマイルのみ職員2名で行った。

◎日常の掃除・・・毎日放課後にトイレ掃除・床のモップがけを行ってきた。また、毎週水曜日、金曜日の午後の活動で掃除を組み入れ、利用者さんと一緒に取り組んできた。（毎日使っている作業室や食堂・トイレ・車洗い等）

◎草刈り・草取り・・・不定期ではあるが気付いた時に行った。

◎ゴミ出し・・・市の定める規則に従って収集日の前日にゴミの分別を行い、当日ゴミ当番が集積所へ出した。古紙・ダンボールについては、市内に設置してある古紙回収ステーションへ搬入して処分した。

◎施設周りの美化・・・施設の周囲燃えやすいゴミや怪我に繋がりそうなゴミがないか確認をし、処分をした。

◎防虫対策・・・今年度は大掃除を行っていないため未実施。

7. 安全委員会

① 活動の報告と反省

・年度内の事故は5件、ヒヤリハット報告は11件。新しく利用者さんが増えたり、支援者の異動もあり、環境に変化がある中で、例年よりもヒヤリハット報告が多く提出されたので、今後の活動に活かしていきたい。利用者さんのケガに繋がる事故もあったので、会議などでも対応について話し合いながら、再発防止に努めた。

② 来年度に向けて

・ケース検討していく中で利用者さんへの理解に努め、利用者さんが安心した気持ちで過ごせるようにしながら、リスクを少しでも減らしていけるように職員間の連携を高められるようにコミュニケーションをとっていく機会を大切にしていきたい。

- ・朝のミーティングや職員会議を通して、交通事故の情報や時季ごとの運転に関する注意事項を職員に伝達、回覧をしていく中で、交通安全の意識を高める機会を設けた。
- ・マニュアルや報告書の書式を見直し、改めて内容を確認し合ったり、報告書を提出しやすい環境を整えていきたい。

8. 生活・保健衛生委員会

- 健康診断は実施できなかった為、検尿、血圧のみ、春秋の2回施設内で各グループ職員で実施した。
レントゲン検査（11/12） 歯科検診（10/15）希望者のみ有料にて実施
- 記録の管理・記入・・・健康記録表、健康診断個人表、健康診断結果表、嘱託医訪問記録、投薬記録（緊急用も含む）の記入 ⇒松ぼっくり～発作の記録は、各グループでケース記録として残している。投薬記録の変更が十分でなかった。
- 個々人への衛生面への配慮
⇒入浴、洗髪、整容、手洗いなどをチェックし声かけや家庭への連絡等を行なった。
- 感染症への対応
 - ・今年度は、コロナウィルスの感染予防の為、毎日の施設内消毒、職員、利用者さんの検温を継続した。
 - ・インフルエンザ⇒**利**0名**職**0名
 - ・嘔吐下痢症、急性胃腸炎の感染は見られなかった。
※吐物処理セットを、各グループと車両に設置するようにした。
- 保菌検査・・・利用者さん、職員共に、（春・秋の2回）実施。
- 『保健だより』の発行・・・時期や状況に合わせて発行し情報提供をした。
- 体重測定の実施・・・毎月1回実施し、体重表を通して各家庭にお知らせした。
- 職員研修・・・今年度は保健に関する研修は実施していない。

9. 行事・バザー報告

今年度は、例年行っていた家族会との合同ウォーキングも新型コロナウイルス感染予防ということで中止した。又、個別外出や宿泊体験についても同様の理由から未実施となっている。

月		行事等	担当	バザー等
4		健康診断（各自実施）		
5		血液検査（各自実施）		ヤマハジャンボリー（中止）
7		浜松学院短大実習（中止）		
9		地域交流会（中止）		
		各G宿泊体験（中止）		
10	15日	城山中学校体験学習（中止） 歯科検診		
11		秋の健康診断（各自実施）		光る子まつり（中止）
11		福田中学校体験学習（中止） ヤマハ労連観劇（中止）		ふくでふれあいまつり（中止）
12	2日～11日	ふれあい作品展、 各Gクリスマス会		
12		冬季休暇（12/29～1/5） 各G初詣		
1		ウォーキング（中止）各G面談		
毎月1回 避難訓練実施				

10. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するため、管理者を責任者とした虐待防止の組織として設置。支援の振り返りをするために「虐待防止チェックリスト」を9月、3月に実施した。施設単位、法人単位で集計し回覧しているが、話し合いや研修の場が持てず支援に活かしきれていない状況である。研修担当者とも連携を図り、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、支援の現場への還元方法を模索していく。

また、利用者さんの呼称(さん付け)について徹底を図るため、事務所への標語の掲示、職員会議などでの呼び掛け等をし、職員一人ひとりが意識できるよう促した。

11. 内部研修

年間計画については、法人内研修担当者での話し合いにて決定していたが、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、法人内合同研修については実施ができなかった。オンライン(Zoom)の活用等も検討し、実施できる方法を工夫していきたい。

内部研修については9月に1回実施した。研修会への参加の機会も減少してしまっているため、令和3年度は職員会議内の時間を利用し、短時間でも研鑽を積む機会が確保できるようにしていく。

<研修内容>

日付	内 容	担当者
未実施	障害、病気について (合同研修)	磐田市立総合病院 白井眞美医師(依頼予定)
未実施	福祉の仕組み、制度について (合同研修)	磐田市障害者相談支援センター 松本一男氏(依頼予定)
未実施	チーム力を高める方法について (合同研修)	研修担当
未実施	意思決定支援、ユマニチュードについて (合同研修)	研修担当
未実施	各施設レクリエーション紹介 (合同研修)	研修担当
9月30日	出張報告(相談支援従事者初任者研修) てんかんについて (内部研修)	高橋めぐみ 間淵剛矢

12. 苦情解決体制

2020年度としては、苦情受付として0件、こんな一言聞きました報告1件という状況であった。内容については、職員の対応に関するもの1件であった。特に「松ぼっくり」としては、対外的なイベントへの参加の仕方や家族の方との連絡や伝達面に関するものが挙げられていた。今後の課題としたい。

13. 相談・福田チーム検討会

施設等で受ける相談については、相談支援専門員・リーダー・地域生活支援担当者を中心に、磐田市、袋井市等の委託相談事業所などの関係機関と連携をとりながら実施している。内容は、通所に関する相談・在宅者への生活支援、学齢児の長期休暇時や放課後の支援相談・進路相談等。また福田地区在宅者のケース検討会(福田チーム検討会)に年5回ほど参加。地区内の各機

関が一致した認識が持てるように、協力して進めている状況である。

又、高齢者のご家族を持つ家庭での利用者支援について、地域包括支援センターなどの相談機関との連携はもちろん、障害福祉関係施設だけでなく介護保険関係事業所とのつながりも、今後ますます必要性があると思われる。

14. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置されている。代表者会、幹事会、個別支援会議を軸に構成されており、参加については、今年度も法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じて参加した。

今年度、課題として挙げられていることは、対人的な面で生きづらさを抱えている人への対応について、十分な準備と環境が用意できないケースが出てきており、中遠地域のみならず、中東遠圏域全体として、特別支援学校卒業後の進路先や今後の地域生活の選択肢等も含めて、どのように考えていくのか、ライフステージごとの課題も併せて検証していく必要があると思われる。

2020年度 潮の香活動

1. 在籍者の状況

2020年度の定員（20名）の月別在籍状況（契約者数）

区分	月	20年									21年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末	男	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	/
	女	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
在籍	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	20年									21年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	/
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
在籍	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

2. その他の利用状況

項目	月	20年									21年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
特実 支習 等生	人員	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	延日数	0	0	0	0	0	3	10	0	0	0	0	0	13
実研 習修 ・生	人員	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	延日数	0	0	0	0	0	0	0	11	1	0	0	0	12
見 学 者	件数	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
	人員	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	4
ボテ ライ ンア	延人数	2	1	1	6	1	2	1	5	2	0	0	0	21
	特記													

3. 活動の状況

新型コロナウイルス感染症の感染予防に努める中で、行事や活動の制限がかかり、例年の楽しいな活動はほぼ中止となった。

作業面では、祭典が中止となり、自主製品である軒花の販売が大きく減収となった。このことから、作業中心の年となってしまったと言えるが、作業を通して、得意なこと、工夫すればできることなど、利用者さん一人ひとりの可能性を見つけ出せたことや、苦手なこと、できないことなど細かく知ることができた意味は大きかった。なにより、毎月の工賃を変わらず支給できたことは、利用者さんと職員が一丸となってひたむきに努めた結果と言える。

(1)仕事について

祭典用軒花は3自治体のみの販売となり、不足する本数分の製作をした。作業棟では、新しく「大洋工業株式会社」より内職作業を請け負い、本所では「有限会社 寺田電子産業」「(株)イノベックス」の内職作業を引き続き行なってきた。多量の作業を請け負う中で、得意な作業を生かしながら、利用者さんそれぞれが作業工程を分担することで、より良い商品の出荷につながり、「潮の香」の信頼度を深めることができた。

外部作業は、コロナ禍で作業量や出向できる日にちの影響を大きく受けたが、続けることが出来た。

《のき花製作》

祭典の中止が決まり、軒花の販売は約5000本にとどまった。このため、出荷した本数のみの製作となった。

《請負作業》

「有限会社寺田電子産業」

ヤマハ部品の袋詰め・ホチキス留めを1500～2000個／1日あたり行ってきた。作業の種類は多岐にわたり、作業ごとにチャレンジを試みた。箱作りが得意な方、熱線処理が得意な方など得意を伸ばし、苦手をカバーし合う作業の展開ができるようになったことが大きな収穫となった。

「(株)イノベックス (旧ダイオ化成(株))」

網戸張替用ローラー (袋詰め、袋とじ、箱詰め) を、毎月約12000本出荷した。(前年度4000本) 全員が行える作業となり、作業の準備 (100本ごと) や10本の小箱詰めまで利用者さんが主体的に行うことにより、作業効率が大幅に上がった。

また、コロナ禍で急激な需要に対応したとして、感謝状をいただける名誉を授かることができた。

「大洋工業株式会社」

今年度から、車両点検後に車内に敷くシートの袋入れ作業を請け負い、年間で4000個出荷した。作業棟で少ない人数で繰り返しの作業となったが、根気よく続けることができた。ロール巻きになっているビニールシートを切る係、折る係、複数の部品をまとめて袋に入れる係など作業の分担をし、力を合わせて完成を目指すことができた。

《外部作業》

地域への社会参加と就労支援の一環として、地域の企業等に積極的に出掛けて仕事をする機会を継続した。

「コーケン工業㈱」

男女合わせて4名が出向しており、自動車部品等の溶接に欠かせない銅のリングをはめる作業を担っている。一つ一つの作業に真摯に取り組み、企業の一員として、責任ある毎日を過ごすことができている。

「(有)静岡フスマ商会・カネ長水産」

男性1名ずつ出向している。すでに長く働いているため、事業所との信頼関係もあり安定している。

「於保老健センター」

シーツ交換作業へ男性1名が他施設の利用者さんと共に出向き、協力して作業に取り組んできた。

(2)その他の活動

新型コロナウイルス感染症の影響により、開催できなかった行事が数多くあった。開催できた行事についても、感染拡大防止の観点から、ご家族に参加の呼びかけができなかったことが残念であった。

そのような中で、作業の合間や作業量を調整することで余暇時間を作り、ドライブや外出、お菓子作りや、DVD鑑賞などを行なった。

①スポーツ・ウォーキング・レクリエーション等

11月にウォーキングで牧之原市の油田の里に訪れた。のんびりと散策し、資料館では石油が採掘された様子を見学できた。公園にはアスレチックもあり、楽しい時間を過ごした。

土曜日の活動では、かぶと塚公園やエコパ、西大谷ダム、浜岡公園、鶴ヶ池公園等々の散策や、コスモス畑、菜の花畑の鑑賞といった外出、近隣の公園での野球、グランドゴルフなどを楽しんだ。室内ではリフレUの部屋を借りてゲームを行なったり、作業室で卓球大会を開いたり、楽しめる内容を実施した。

②音楽・美術の鑑賞及び出展

今年のふれあい作品展では、力を合わせて制作した大型の桜のちぎり絵が、華やかに壁面を飾った。写真撮影を趣味にしている方のカモメのアップ写真はユーモラスで目を引いた。また、小説を書くことが趣味の方からは、100ページの本を3冊展示し、内容の紹介に絵を添えた関連図を作成するなど、展示にも工夫を凝らしていた。加えて、個性豊かに作成したみなさんのクリスマスリースが、潮の香ブースに賑やかさを添えていた。自分の作品が図書館に展示される楽しさを感じ、次の機会へと繋がっていくことを期待したい。

音楽関係では、「クリスマス会」に、職員のピアノと中国の弦楽器「二胡」の演奏を楽しんだ。また、利用者さんによるハンドベル演奏を作業棟、本所で交代して披露した。練習を重ね、互いに披露できたことで讃え合うことができた。美しい音色を仲間と奏でる喜びを感じる機会となった。

日常的な音楽活動としては、利用者さんと決めた曲を、朝の会で毎日歌った。利用者さん達と歌を相談することも楽しみのひとつである。また、歌の時間を組み込むことで、朝の会への参加を促す時間になったり、声を出すことで活力が増したりする効果を感じてきた。

③野外活動

春に敷地川への「お花見」に出かけ、満開の桜並木を満喫した。初夏には黄色いレシートキャンペーンのご厚意にあずかりバーベキューを満喫した。美味しいお肉を堪能し、オードブルや焼きそばをお腹いっぱいいただけた。8月には「納涼祭」を開催し、ゼリーすくいやヨーヨー釣り、射的にたこ焼きなどいろいろなことを楽しんだ。中でも、中庭での水遊びでは、水鉄砲やバケツを使い思い切り体を使って楽しむことができた。秋にはウォーキングで「相良油田の里公園」に出かけ、秋空の気持ちのいい園内を散策した。

コロナ禍で、出来る範囲での活動となったが、利用者さん相互の交流と、利用者さんと職員との距離を縮めるいい機会となった。

④個別体験

新型コロナウイルス感染症の感染予防のため中止とした。

⑤BDショッピング（バースデーショッピング）

新型コロナウイルス感染症の感染予防のため中止とした。

お誕生日には、朝の会に仲間同士でお祝いの言葉を送りあい、生まれたことを祝った。

⑥地域清掃

今年度も社会参加の一つとして、地域のごみを拾う活動を続けてきた。ごみを「拾う」「ウォーキング」ということから、「ひろ道ウォーク」と名付け、長きに亘り行ってきた活動である。活動中には地域の方に挨拶をする機会もあり、「ありがとう」などの声を頂いたりすることで、積極的に「まちをきれいにする」意識が高まっている。

活動は月に一回のペースで行い、夏季や冬季は、近年の異常気象による健康上の心配から実施を見合わせた。今後も地域貢献活動として継続していきたい。

⑦創作活動

土曜レクで行った「クリスマスリース作り」の制作では、庭にある材料を集めるところから実施した。庭をくまなく探すと、つるや花の実、黄色や赤の葉などの材料がいっぱいあり、みなさんで宝探しのように楽しく季節を感じる活動となった。

また、ふれあい作品展への出展を楽しみに、それぞれが絵を描いたり、折り紙を折ったりと、色々な作品作りに意欲的に活動できた。

⑧イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン（マックスバリュ福田店投函分）

今年度も地域の皆様の多大なご協力により、74,500円（年2回）もの助成を賜った。防災のための物品を購入させていただいたり、皆さんが楽しみにしているバーベキュー大会を開催したりすることができ、大きな楽しみに繋がっている。

地域の方に「潮の香」を応援していただけることを感じる嬉しい機会となっており、たくさんのご協力を頂いた皆様方に、改めて感謝申し上げたい。

⑨その他の活動

季節の楽しみとして「新年会」や「節分」を行った。新年会は感染予防のため、施設に温かい釜めしの仕出しをお願いし、おいしく頂いた。節分では、施設の邪気を払い、福をみなさんで呼び込んだ。

また、ボランティアさんによる「お話の会」はコロナ禍で2回のみで開催だった。たくさんのお話や紙芝居を読み聞かせして下さり、楽しくリラックスさせていただける機会となっている。ボランティアさんの準備や片付けを手伝ったり、お話をしたりして交流を深めている。

今年度も、かもめ〜るのご寄付をいただき、日頃お世話になっているボランティアさんや事業所さんなどに季節の挨拶と共に感謝の気持ちを届けた。

(3)食事等について

- ・顎が弱い方、歯の揃わない方には、食べやすい大きさに刻む支援を行った。
- ・健康に配慮が必要な方については、給食の油物を少し減らしたり、ソース・醤油をかける量を調節したりする支援を行った。
- ・声掛け等で苦手なものを食べられる方に対しては、個別の対応を行った。
- ・食事後、食堂の床の雑巾がけを当番制で行ってきた。進んで取り組める方も多いが、声を掛け合う姿も見られ、習慣となってきた。
- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、テーブルにアクリル板を設置することや、対面で食事を摂らないように配慮した。

(4)健康管理及び安全

利用者さん一人ひとりの健康を維持し、体力の向上を図るために、次のような支援をしてきた。

- ・日常生活の衛生面においては、手洗い、うがい、歯磨き等の励行を繰り返し進めてきた。
- ・朝のラジオ体操・ストレッチ運動・散歩は毎日欠かさず実行できた。ストレッチ運動は利用者さんが積極的に進めた。音楽に合わせた体操や、ジョギングなども日課に取り入れ、体を動かす時間を多くした。
- ・悩みを訴える利用者さんには意識的に声を掛け、話しがしやすい関係作りに努めた。

また、表情や身体の変化が見られる利用者さんには話を聞き、ご家庭との相互の情報交換を行い、対応を図った。

- ・通所のための自転車利用者に対しては、帰りの会等で交通安全注意を呼びかけた。
また、強風や雨などで自転車での帰宅が心配な利用者さんには個別の対応を行った。
- ・地震（津波）及び火災を想定した避難訓練を本所と作業棟で毎月交互に実施し、安全で迅速な避難ができるようさまざまな場面での「予告なしの訓練」を行った。

11月11日は総合防災訓練で起震車体験をした。震度6を想定した体験では、床に伏せている状態から動けず、改めて地震の威力や怖さを実感した。今後の避難訓練に生かしていきたい。

(感染症予防対策)

- ・利用者の皆さんにマスクの着用や健康チェックを依頼し、毎日の健康観察を行った。
- ・施設内や車両内の消毒を毎日実施した。
- ・外出後、食事前には除菌ジェルで手指の消毒を促した。
- ・部屋の換気（窓や玄関の開放）を行うとともに、空気清浄機の導入や乾燥する時期には加湿器を設置した。
- ・作業机や食堂では、アクリル板を利用した。
- ・感染症について職員に伝え、施設内での感染予防の意識を高めた。
- ・体調不良者や発熱時などへの対応マニュアルを作成し、初期の感染拡大予防に備えた。

4. 委員会活動

各委員会活動は、それぞれの施設で対応した。今年度の他施設との協議は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた活動にとどまった。

①生活・保健衛生委員会

- ・健康診断の実施

レントゲン、保菌検査（年2回）

身体測定（身長・体重）・検尿と血圧（潮の香で実施）

- ・個人の衛生面への配慮

入浴、洗顔、洗髪、整容、うがい、手洗い、歯磨きなどの励行と、本人やご家庭への相談を行った。必要時には計画相談「結」との連携で、他のサービス機関へ繋いだ。

手洗い・うがいは外出後必ず行うよう声掛けした。習慣となってきた方が多い。

歯磨きは、必要に応じて、歯磨きに誘ったり、磨き方を伝えたりした。時には、仕上げ磨きを行った。「歯磨きチェック表」に印を付けるようにして習慣としてきた。

- ・歯科検診は、希望者に実施した。結果はご家庭へ知らせた。

②環境美化委員会

例年、ご家族の協力をいただき年に2回の大掃除を実施するが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で主に職員が行い、施設内の整備も併せて行った。

施設外では、花の世話や草取りなども利用者さんと一緒に行い環境美化に努めた。

また、日頃から職員全体に呼びかけ、環境美化に意識が高められるよう働きかけた。

③安全委員会

- ・毎月1回施設内外の設備点検を行い、不良箇所の修正に努めた。
- ・施設車両の点検、修理を適時行い、事故の未然防止に努めた。

④人権擁護・虐待防止委員会

人権擁護・虐待防止チェックリストを10月と3月（半期に一度）を実施し、職員一人ひとりが自己意識を高められるようにした。集計結果は、施設内に回覧し、職員会議でも報告することで、利用者さんの人権擁護や虐待防止について全職員への周知を図った。

5. 行事・バザー結果報告

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	開所記念日(1) お花見(6) 家族懇談会(延期)							
5	お話の会(中止)			○				
6	バーベキュー大会(12) 家族会清掃(中止)	難いシートキャンペーン						
7	お話の会(9)	ボランティア係		○				
8	納涼祭(21)							
9	お話の会(中止) 地域交流会(中止)							
10	歯科検診(15)	保健委員会		○				
11	ウォーキング(9) 総合防災訓練(11) お話の会(12) レントゲン(12) 家族懇談会(20) ミニ旅行(中止)	防災担当 ボランティア係 保健委員	○	○				
12	ふれあい作品展(2-10) クリスマス会(28) 駄菓子屋さん(28) 家族会清掃(中止) ヤマハ労連チャリティー公演(中止)							
1	初詣(6) 新年会(7) 個別面談 お話の会(中止)		○					
2	豆まき(3) 個別面談		○					
3	はまべ会役員会(18) 竹染め作業(25) お話の会(中止)		○					
他	ひろ道ウォーク 毎月第一月曜日(夏季・冬季は中止) 避難訓練 毎月 土曜レクリエーション(開所日)							

6. 職員研修

研修内容について検討を重ねたが、感染予防を中心に対応したため、思うような実施に至ることができなかった。しかし、人権擁護・虐待防止をはじめ、よりよい利用者さんへの関わりについてなどの支援の在り方について、限られた時間の中で理解に努めた。

法人全体での研修は、感染予防のため開催を見送った。

7. 苦情解決体制

苦情受付、こんな一言聞きました報告ともに0件という状況であった。

日頃の相談窓口として連絡ノートを活用した。ご家族と話しやすい関係を作るため、相互の情報交換を行ない、調整できるものはご家族と相談しながら進めてきた。時には電話での相談も行った。

8. 地域生活支援事業

ライフサポート事業で通院支援や送迎などを実施した。日中一時事業では、はまぼうや潮の香でご家庭の要望に合わせ、平日や休日に受け付けた。また、福祉有償運送を使った送迎支援などを行った。

9. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

各相談事業所や市町の担当者と連絡をとりながら、利用者さんのご家族や地域の方から相談を受け付けた。在宅生活を支えるための支援や、地域での生活についての相談があった。個別ケース会議を開いて緊急時の対応なども行った。必要時には、計画相談「結」に相談し、生活全般のサービスの見直しや追加点の検討を行なった。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

10. 日常生活自立支援事業・成年後見制度

利用者さん1名が社会福祉協議会の日常生活自立支援事業を、3名が成年後見制度を利用している。生活支援員及び後見人等と協力し、計画的・快適に暮らせるような配慮をし、月に一度の面会も定期的にも実施した。

11. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置されている。代表者会、幹事会、個別支援会議を軸に構成されており、参加については、今年度も法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じて参加した。

今年度、課題として挙げられていることは、対人的な面で生きづらさを抱えている人への対応について、十分な準備と環境が用意できないケースが出てきており、中遠地域のみならず、中東遠圏域全体として、特別支援学校卒業後の進路先や今後の地域生活の選択肢等も含めて、どのように考えていくのか、ライフステージごとの課題も併せて検証していく必要があると思われる。

2020年度 指定特定・障害児相談支援事業所「結」 事業報告

1. 平成24年10月より磐田市の認可を受けて実施する。

(1) 事業概要

障害者（児）の自立した生活を支え、障害者（児）の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援する。

(2) 対象者

- ・ 障害福祉サービスまたは地域相談支援を利用するすべての障害者
精神障害がある方で、医療との連携を外せない場合、専門性の高い事業所を紹介することがある。
- ・ 障害福祉サービスを利用するすべての障害児

(3) 対象地域

磐田市、袋井市、掛川市、浜松市、森町

(4) 内容

①計画相談支援

○支給決定時（サービス利用支援・障害児支援利用援助）

- ・ 支給決定又は支給決定の変更前に、サービス等利用計画・障害児支援利用計画（以下、「計画」という。）案を作成
- ・ 支給決定又は変更後、サービス事業者等との連絡調整、計画の作成

○支給決定後（継続サービス利用支援・継続障害児支援利用援助）

- ・ 厚生労働省が示した対象者ごとの標準期間を原則として、各市町で定める期間ごとに、サービス等の利用状況の検証を行い計画の見直しを行う（モニタリング）。
- ・ サービス事業者等の連絡調整、支給決定又は支給決定の変更に係る申請の勧奨。

②基本相談支援

- ・ 障害者や障害児からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等の他、必要な便宜を供与する支援

2. 2020年度を振り返って

- ① 掛川市などの児童を除き、ほぼ100%のサービス利用者に計画相談が実施され、現在はモニタリングを通して、利用者の状況を把握し、課題解決の度合いや新たな課題を探り、今後の方針を確認することが主な事業内容となっている。

モニタリング期間について、平成30年度より標準期間を短縮する見直しがあり、サービス利用の種類によって、1年→6ヶ月、6ヶ月→3ヶ月に変更されている。今年度前半は、新型コロナウイルス感染拡大により、家族と対面で話をすることを控え、電話で様子を確認する形をとることもあったが、現在は、感染予防を徹底して、直接会って話をする機会を設けている。定期的に様子を確認することで、タイムリーに必要な支援に繋げることができている。

- ② 計画相談の目的からも、市の委託を受けている一般相談の事業所や就労・生活支援センター、または地域包括支援センターや介護保険のケアマネジャー等と連携しながら対応することは、重要な事柄となっている。中でも65歳以上となる利用者には介護保険優先の原則のもと、介護認定

が求められ、利用者さんの高齢化と共に、老障介護の問題も深刻となる中で、高齢者を取り巻く相談窓口としての、地域包括支援センターとの連携は増々欠かせない状況となっている。

今年度、65歳以上となった方や特定疾病に伴い介護保険に移行する方が数名あった。介護保険移行後も日中の場合は生活介護を利用するなど、必要に応じて障害福祉サービスを利用するケースもあり、ケアマネジャーとの連携や情報の引継ぎの大切さを新ためて実感した。

- ③ 児童の場合は「あにまあと」の放課後等デイサービスを利用している方の計画が中心で、大半が重症心身障害児の計画相談となっていたが、市内の障害児相談支援事業所が1ヵ所廃止されたことに伴い、児童5名の障害児相談支援を引き継ぐこととなった。また、それ以降も特別支援学校、地域の小中学校に通う児童からの相談が増えている。それぞれ抱える課題が異なり、また、利用する事業所も多岐にわたることで、事業所や学校、医療との連携など、今までとはまた異なる動き方が求められている。
- ④ 毎月1回、結全体の会議を実施し、新規ケースの受理、継続ケースの進捗状況の確認、各会議報告などを行っている。実際の相談業務の中では、相談員が一人で動くことが多く、すぐに解決できない課題を抱えることも多い。月1回、皆で課題を共有することで悩みが整理され、次の支援に繋げることができている。2ヵ月に一度は、磐田市障害者相談支援センターの巡回相談もあり、計画相談の実情を知ってもらい、内容によっては地域の課題として把握してもらおうなど、日頃の業務を見直す良い機会となっている。
- ⑤ 磐田市障害者相談支援センターが中核となって運営する相談支援専門員連絡会があり、2020年度は年間6回の連絡会が開催された。内容としては、磐田市障害者相談支援センターで毎月行っている、特定相談事業所への巡回を通して拾い上げた地域の課題や、相談支援事業所で抱えている問題等を皆で情報共有したり、解決に向けた検討などを行った。今年度は、新型コロナウイルス感染症による例年とは異なる相談員の動きについても、確認や情報共有をしている。

その他

* 福田地区チーム検討会 年6回開催・出席

* 相談支援事例検討会 年5回開催・主席

2020年度の計画作成数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画作成	6	4	8	18	6	5	6	5	5	8	6	11	88
児童	1	0	2	0	2	3	1	0	0	3	2	7	21
合計	7	4	10	18	8	8	7	5	5	11	8	18	109
モニタリング	33	32	39	36	35	42	32	43	40	38	37	34	441
児童	1	1	1	3	0	2	1	0	3	1	2	3	18
合計	34	33	40	39	35	44	33	43	43	39	39	37	459

2020年度 地域療育支援センター 事業報告

1. 令和2年度の状況

登録者数	前年度末現在	5人		
	新規登録	5人		
	登録抹消	3人		<u>R2年度末現在登録者数 7人</u>
在宅支援訪問療育等指導事業	実人員	7人	延べ回数	36回
在宅支援外来療育等指導事業	実人員	1人	延べ回数	1回
施設支援一般指導事業				0回

2. 内容については

- ・福祉サービスの利用援助・情報提供
- ・日常生活(医療的ケアを含む)に関する相談支援
- ・家族支援・緊急訪問支援
- ・医療的ケア児の在宅療育訪問支援
- ・就学に関する事、学校卒業後の進路先に関する相談支援・情報提供
- ・就学前(乳幼児)や就学後(児童)の日常生活相談
- ・日常生活及び就労に向けての相談

令和2年度は重症心身障害児(者)や知的障害や肢体不自由の方を対象とした動きを継続するなか、日常における生活支援や進路に関する相談があった。また重症心身障害の方の療育訪問は対象者が増え、定期的な訪問の他、ご家族からの依頼があり訪問に伺ったケースもある。回数が増えるほどに本人・御家族共に喜んで頂いている。

支援者(親)の高齢化に伴い、本人を含む「家族支援」が必要となるケースも徐々に増えてきている。今後の生活に向けた事業所の見学を希望されるケースやサービス内容について、相談を求められるケースも多くなっている。

このような状況であるが、県の方針として来年度は、「在宅重症心身障害児(者)療育支援事業」と名称を変え、対象者を重症心身障害児(者)とすることが決定している。

2020年度 地域生活支援事業活動報告

静岡県及び各市町が定めた「地域生活支援事業」及び「障害児者ライフサポート事業」実施要綱等に基づき、各市町の委託を受けて地域生活支援事業・ライフサポート事業・福祉有償運送を実施。利用者さん等からの依頼を受け、必要に応じた地域生活支援サービスを提供することにより、障がいのある人やその家族が地域で安心して生活できるための支援を行った。

今年度委託契約して実施したサービス内容は次のとおり。

1. 提供サービス内容（各市町との委託契約を受けて）

地域生活支援事業（提供市町：磐田市、袋井市、掛川市及び森町）

日中一時支援事業

移動支援事業（袋井市＝外出介護事業）

ライフサポート事業（提供市町：磐田市、袋井市、森町）

ヘルパー派遣（自宅等での支援、外出支援、送迎サービス）、デイサービス

福祉有償運送(提供市町：磐田市、袋井市、掛川市)

2. サービス提供時間

運営規程に則り6：00～22：00の間で受け付けをして、一定の期間で区切って調整したうえで支援を提供した。早朝や夜間時間帯の支援依頼はほとんど無く、その殆どが8：00～19：00の時間内に集中していた。

3. 利用状況

法人の事業所に所属する利用者さんや特別支援学校の生徒さんからの依頼が中心だった。新規の依頼については、それほど多く相談は寄せられなかったが、相談があげられた際には施設見学や面談を実施して、要望をお伺いしたり契約を行なった。受け入れ体制の整備を念頭に置きながら、必要に応じて新規登録ヘルパーの採用、法人内施設の職員体制について、関係者を交えて相談しながら対応した。

移動支援は、その目的に沿って余暇活動の充実のための支援を行うものであり、公共交通機関を利用しての外出への付き添い対応をするもので、法人職員が主たる支援者として受け入れを実施した実績があるが、今年度は依頼が無かった。

法人の事業所に所属する利用者さんの早朝時間帯の利用や、日中活動終了後の延長利用、または施設閉所日における日中一時支援や移動支援の利用希望があり、それぞれの施設における職員の受け入れ体制を整えながら、できる範囲で対応した。

特別支援学校の長期休暇時には、受け入れ依頼が毎年いただいております、期間中対応している。

磐田市や近隣市町や相談支援事業所を通して、いろいろなケースにおける送迎を伴うサービス提供が可能かといった相談があり、その都度各市町とサービス内容について確認をしたが、体制の面で実際にサービス提供に移すのが困難なことが多かった。

4. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応について

新型コロナウイルスの感染が世界的規模で拡大し、猛威を振るい歯止めがかからない状況を受けて、政府が4/7に緊急事態宣言を発令、4/16に対象地域を全国に広げた。このことにより、それまでにあたりまえのように営まれていた企業の営業活動や社会生活、教育の場面などにおいて、前例の無いような変化を余儀なくされた。特別支援学校においても臨時休業、分散登校、早下校

の措置が取られ、法人でできる範囲での受け入れ対応を行なった。法人内の事業所の利用者さんについても、家庭等の環境が許す方については、感染予防の観点から自宅で過ごしていただいた。静岡県に発令されていた緊急事態宣言は5/14にいったん解除されたが、時を経て寒い時期を迎えると再び猛威を振るうようになり、止まることのない感染拡大の状況と医療崩壊に関する報道が毎日のようななされ、依然として予断を許さない状況下にある。

別 表

2020年度 地域生活支援事業 月別実績件数

磐田市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R1
ライフサポート	91	76	113	112	85	124	135	120	123	111	101	131	1322	1623
日中一時	324	295	345	354	323	341	372	333	329	313	317	350	3996	4042
移動支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
合計	415	371	458	466	408	465	507	453	452	424	418	481	5318	5672

袋井市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R1
ライフサポート	4	3	5	5	5	4	2	2	4	1	4	4	43	104
日中一時	43	32	44	42	33	36	42	36	39	35	32	39	453	488
外出介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	47	35	49	47	38	40	44	38	43	36	36	43	496	592

森町

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R1
日中一時	4	3	8	11	10	12	13	12	6	5	5	9	98	25
外出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	4	3	8	11	10	12	13	12	6	5	5	9	98	26

掛川市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R1
日中一時	4	4	6	3	4	6	5	3	5	4	4	4	52	70
合計	4	4	6	3	4	6	5	3	5	4	4	4	52	70

2020年度 共同生活援助事業 汐風 活動報告

1. 入居者さん及び各グループホームの状況

【汐 風】

入居者さんの身体的状況を考慮し、体調観察や通院の支援、服薬の適切な管理など項目として整理し、その必要性に応じて実施している。そのうえで、業務日誌に記入しながら併行して体調観察を日々行なうようにし、血圧や体温計のバイタルチェックや摂食量も把握した。クリスマス会などの行事を、入居者さんと世話人とで共同で計画して実施した。

入居者さん同士お互いが気持ちよく過ごせる環境を模索するなかで、それぞれの気持ちに配慮した対応をその都度心掛けた。通所施設での出来事をひきずって精神的に不安定になってしまうことがあり、対応に苦慮する場面が度々あった。通所施設との情報交換をしながら安心して過ごせるように対応を考えた。

昨年度、福浜会の生活介護事業所を利用している2名の方が新しく入居された。入居者さん同士の関係も良好に保たれており、生活にも慣れ親しんでいる様子が見受けられている。

【あしたば】

全身性障がいのある入居者さんの地域生活支援事業を利用した通院や買い物、散髪、身体機能維持のためのリハビリへのお付き添いなどの依頼が定着して定期的に実施している。在宅医療クリニックに月1回の訪問を依頼し、体調管理、健康維持に関し継続して把握した。

その時期に合わせ、入居者さんと世話人とでクリスマス会や誕生日会など共同で計画して実施した。地域行事として毎年御殿夏祭りへ参加しているが、今年は新型コロナウイルスの感染状況を受けて中止となった。

必要に応じて法人職員も勤務シフトに入りながら、世話人だけで埋まりきらない部分を補っている。直接雇用に限らず人材派遣会社を通しての雇用もしながら人材確保に努めている。

【日 和】

入居者さん同士が良好な関係でいられるように世話人が言葉がけ、促し等して配慮をしているが、関係性の中でうまくいかず、時として対応が難しい場面がある現状が続いている。

食事会など、その時期に合わせてできる範囲内で入居者さんの要望を伺い計画して実施した。

持病を抱える入居者さんへの生活支援については、食事内容に工夫を入れたり、その病状等にあわせて、制限がかけられながらも、なるべく本人の望むような生活をと、職員とその支援の在り方や本人へのはたらきかけ等を相談しながら本人の様子を見守っているが、なかなか本人が納得していい形の方角へと向いていかなかった。難しさを感じている。

一般就労している入居者さんが11月に転職をし、新しい職場で働くことになった。交替勤務制なので、朝晩の食事については確認しながら必要な時に提供している。困った時に身近に相談できる職場の従業員さんがいるようで、安心して頑張っている様子である。見通しを持ってお金の使い道を考えていけるように助言する機会が必要である。

日和を本体住居として障害者GHサテライト型（概ね3年間を経過期間として独り立ちを目指す）として受け入れてきた入居者さんの最終年度の支援となった。袋井特別支援学校の高等部を卒業して就職したコーケン工業(株)を令和2年4月中旬で退職して、本人の希望で転職したが、その後も相変わらず勤務態度はまじめで安定した収入を得ていた。本人からの申し

出があり、令和3年1月末までで退所し、サテライトのサービス提供も終了し、法人で預かっていた通帳や印鑑等も返還した。新しい環境の下で、支えてくれる方達からの要望があり、福祉関係者との繋がりが切れないようにしてほしいとのことで、浜松市基幹相談支援センターに情報提供をして、困った際の相談窓口となってもらえるようお願いをした。

【みぎわ】

365日開所のホーム。時期に合わせて食事会を行ったり、散歩して外出したり地域行事に出かけたりするなどしているが、今年度に限っては新型コロナウイルスの感染状況を受けて大半は自粛することとなった。

休日に育成会や地域行事の一環で外出を楽しみにしている入居者さんには、社会情勢を受けて自粛を求めることとなったが、感染予防の観点から公共交通機関の利用を避けて送迎を兼ねて付き添い者と育成会で提供していただいたケーキを受け取りに行くなどした。

介護保険サービスへの移行期間として週に1回デイサービスを利用している入居者さんについて、1月に入りショートステイも体験したが、その後は本人が希望せず実施しなかった。

2. 世話人体制

汐風、日和、みぎわは基本的には1日通して世話人一人体制で勤務し、全身性障がいの方がいるあしたばは、トイレや入浴介助に入る必要性があり、時間帯によっては2人体制で勤務した。

夜勤体制については、汐風、あしたば、みぎわについては毎日1名の配置を継続して実施し、日和については週4～5回配置した。夜勤の勤務内容としては、就寝への促し、夜間の見回り、入居者さんの安全確認、夜間における緊急時の対応である。法人の職員が夜勤に入った場合、グループホーム従事者（非常勤職員）として位置付けた。

また、定期的に週末に自宅に帰省している方が、家庭の事情や本人の要望により週末もホームで過ごすことになることがあり、状況に応じて世話人の勤務体制を整えるなどの対応をした。

世話人の事情等により、年間を通して勤務体制がめまぐるしく変わり、その都度勤務シフトを組み直さざるを得ない状況があった。生活援助の継続のための世話人確保の問題が依然として浮き彫りとなっている。内部包括型の運営をしていくために、世話人の絶対数の確保は重要課題である。

3. 健康管理

毎朝のバイタルチェックとして検温を行い、健康管理に留意した。高血圧が気になる方には、定期的な通院の支援と毎日の血圧チェックをした。食事に関しては、肥満等の予防も兼ね、栄養バランスなど考えた世話人の手作り料理を提供している。服薬については、ホーム毎、入居者さん毎にその方法を決めて取り組んだ。体調不良など、普段と違う様子が見られた際には、日中活動の施設の職員と情報を共有し、必要に応じてご家族に報告し、その後の指示を仰ぎ対応をした。

就寝前後、起床前後のエアコンのスイッチON⇔OFFや温度調節などを行ない、時期に合わせた適切な空調環境の維持に努めた。

時間を見つけて入居者さんと近所に散歩に出かけ、体力維持、運動不足解消を図る機会とした。

新型コロナウイルス感染予防の観点から消毒処置を定期的実施し、入居者さんにこまめな手洗いを励行した。また、人との接触をなるべく断つことを目的として地域へ買い物などで外出した際も、用が済んだらすぐにホームに戻って来てもらうよう繰り返しお伝えした。

同じく感染予防の観点から、公共交通機関の利用を極力避け、施設への交通手段として送迎車を利用した。

4. 活動起案書による余暇活動

あらかじめ割り充てられた年間予算のなかで、活動、外出、外食などの希望が入居者さんよりあげられた際は、それぞれのホーム単位で世話人と一緒に相談しながら計画を立てて実施し、余暇活動の充実や社会体験を増幅する機会としているが、今年度は新型コロナウイルスが感染拡大し、そのような社会情勢を受けて、法人で定めた感染防止マニュアルに基づいて事業所での活動の規模等を考慮し、ホーム内でやれること（食事会等）に限って行なった。

5. その他

ホーム単位で世話人と定期的に話し合い（会議）を行ない、勤務シフトの確認と入居者さんの直近の様子の申し送りや、業務の流れの確認などをした。通常と異なる状況や様子がみられる入居者さんについては、その前後の状況や出来事などの情報を共有するため、ノート等による申し送りをしたり、必要に応じて勤務前に連絡を入れて報告をするなどして対応した。また、職員がバックアップに入った際には、世話人との情報交換なども行なった。

今年度は世話人さんの事情等により、会議に出席できる環境や曜日設定の調整がうまくできず、話し合いの場を十分に持てなかった。

話し合いの折には、法人の理念や目的に沿って基本的な関わり方、業務の流れの理解を大事にしながら、入居者さんの希望する生活の実現に向けてそれぞれの世話人がお互いを尊重しあい、チームワークを大事にしながら支援にあたってもらうようにはたらきかけた。

今年度はグループホームの入居者さん宛てに国勢調査がなされた。記載されている項目に沿って入居者さんやご家族に情報収集し、相談しながら書類作成をした。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、政府が4/16に当時の安部首相から緊急事態宣言が発令され、4/16（木）には発令対象地域が静岡県を含む全国に広がった。このことにより、本人とご家族に相談して自宅で過ごしていただける方については4/29（水・祝）～5/10（日）までの一定期間ホームの利用を控え在宅で過ごしていただいた。その後5/14（木）に静岡県下に発令されていた緊急事態宣言は解除された。政府が打ち出した“緊急経済対策”による特別定額給付金の受給（国民1人あたり一律10万円の支給）手続きに際し、各家庭の状況を鑑み、漏れが無いように進め、6月上旬には全ての入居者さんの手続きが完了した。

2020年度磐田市障害者相談支援センター 及び磐田市障害者虐待防止センター事業報告

磐田市障害者相談支援センター

磐田市障害者相談支援センターは、磐田市より障害者相談支援事業の業務委託を受けて活動しています。
(このなかに障害者虐待防止センターの機能も含まれています)

センター所在地	磐田市国府台57-7 磐田市総合健康福祉会館（iプラザ）
受託法人	社会福祉法人 福浜会
支援の実施地域	磐田市全域（福田、竜洋、南部中学校学区を除く）
対象者	知的、精神、身体の障がいをお持ちの方 (障害者手帳がなくても障がいがあるのではないかと思われる方も含みます)
開所時間	月曜日～金曜日 8:30～17:15（24時間電話対応）
職員数	4人（社会福祉士、精神保健福祉士、相談支援専門員） 知的障害、身体障害の担当と、精神障害の担当に分かれています。

支援内容

- | | |
|-------------------|------------------|
| ①福祉サービスの利用等に関する支援 | ⑦家計・経済に関する支援 |
| ②障害や症状の理解に関する支援 | ⑧生活技術に関する支援 |
| ③健康・医療に関する支援 | ⑨就労に関する支援 |
| ④不安の解消・情緒安定に関する支援 | ⑩社会参加・余暇活動に関する支援 |
| ⑤保育・教育に関する支援 | ⑪権利擁護に関する支援 |
| ⑥家族関係・人間関係に関する支援 | ⑫その他 |

ライフステージにおける支援の具体例

	支援内容
乳幼児期 0～6	【障害の受容、適切な療育を受けるための支援、就学に向けての支援】 ・重症心身障害児の退院後の生活のコーディネート ・母親が働くために就労時間に合わせたサービス調整 ・母子家庭、父子家庭の養育等に関する不安の相談 ・本人以外にも支援の必要な方がいて家族全体に支援が必要な方 etc.
学齢期 6～18	【放課後、長期休暇のサービス利用、卒業後の進路、家族のレスパイトのこと】 ・虐待防止の観点から児童相談所と家族支援 ・親に障害がある方への支援 ・集団活動が苦手なコミュニケーション手段が少ない方への地域で支える支援

成人期 18歳 以上	<p>【障害者年金の申請、成年後見人制度の利用、住宅入居の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害のある夫婦の子育てについて保健師と連携して対応 ・刑務所出所後の方の更生のための支援 ・民事事件に巻き込まれた方へ弁護士と協力して対応 ・精神科受診に繋げる支援 <p style="text-align: right;">etc.</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳以降の介護保険と障害福祉サービスの併用について

こんな機関と関わっています

市・県の機関（児童相談所等）、教育機関（特別支援学校等）、サービス事業所（施設等）、病院、警察、弁護士、幼稚園、保育園、ハローワーク、地域包括支援センター

磐田市障害者虐待防止センター

障害者虐待防止法は、障害者の安定した生活や社会参加を助けるために、障害者の権利や尊厳が脅かされることを防ぐ法律となります。

障害者虐待防止センターでは、通報や届け出の受付、虐待を受けた方の保護のための相談・指導及び助言、虐待防止のための啓発活動をおこなっています。

○ 障害者虐待の種類
①養護者による虐待
②障害者福祉施設従事者等による虐待
③使用者による虐待

○ 障害者虐待とは
・身体的虐待
・性的虐待
・心理的虐待
・放棄・放任（ネグレクト）
・経済的虐待

令和2年度 磐田市障害者相談支援業務 完了実績報告書

令和3年4月10日

法人名 社会福祉法人福浜会
 所在地 静岡県磐田市福田4396-1
 代表者 理事長 高橋 和己

令和2年度分の磐田市障害者相談支援業務の実施状況を次のとおり報告します。

【障害者相談支援業務】

(相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人員 (1)	身体障害 (2)	重症心身 障害 (3)	知的障害 (4)	精神障害 (5)	発達障害 (6)	高次脳 機能障害 (7)	その他 (8)
障害者 (01)	438	58	2	149	233	54	11	26
障害児 (02)	62	6	4	53	2	23	0	2
計 (03)	500	64	6	202	235	77	11	28

(支援方法)

	訪問 (1)	来所相談 (2)	同行 (3)	電話相談 (4)	電子メール (5)	個別支援 会議 (6)	関係機関 (7)	その他 (8)	計 (9)
身体障害	155	58	36	171	36	12	305	0	773
知的障害	696	353	361	1,556	73	76	1,724	5	4,844
精神障害	585	431	304	685	71	56	494	5	2,631
件数 (07)	1,436	842	701	2,412	180	144	2,523	10	8,248

(支援内容)

	福祉サービスの 利用等に関する 支援 (1)	障害や症状の 理解に関する 支援 (2)	健康・医療に 関する支援 (3)	不安の解消・ 情緒安定に 関する支援 (4)	保育・教育に 関する支援 (5)	家族関係・人 間関係に関す る支援 (6)	家計・経済に 関する支援 (7)	生活技術に 関する支援 (8)	就労に関する 支援 (9)
件数 (08)	2,617	634	1,091	2,321	159	1,107	852	752	583
(再掲) ピアカウンセ ンセラー (09)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	社会参加・余 暇活動に関す る支援 (10)	権利擁護に 関する支援 (11)	その他 (12)	計 (13)
件数 (08)	30	108	119	10,373
(再掲) ピアカウンセ ンセラー (09)	0	0	0	0

【相談支援機能強化業務】

	件数
総合的・専門的な相談支援	346
相談支援体制の強化	777
地域移行・地域定着の取組み	0
権利擁護・虐待防止	10
中遠自立支援協議会の運営	63

令和2年度 磐田市障害者虐待防止業務 完了実績報告書

令和3年4月10日

法人名 社会福祉法人福浜会
 所在地 静岡県磐田市福田4396-1
 代表者 理事長 高橋 和己

令和2年度分の磐田市障害者虐待防止業務の実施状況を次のとおり報告します。

(障害者虐待の相談又は通報を受けた件数※被虐待者障害種別・虐待種別)

	養護者による虐待 (1)	施設従事者等による虐待 (2)	使用者による虐待 (3)	その他 (4)	計 (5)
身体障害 (01)	0	0	0	0	0
知的障害 (02)	4	0	0	0	4
精神障害 (03)	1	0	1	0	2
手帳未所持 (04)	1	0	0	0	1
実人員 (05)	6	0	1	0	7

(障害者虐待の相談又は通報を受けた件数※受付方法別・虐待種別)

	養護者による虐待 (1)	施設従事者等による虐待 (2)	使用者による虐待 (3)	その他 (4)	計 (5)
窓口 (01)	1	0	1	0	2
電話 (02)	5	0	0	0	5
メール・FAX (03)	0	0	0	0	0
件数 (04)	6	0	1	0	7

※休日・夜間に受けた場合は()書きで再掲

(養護者および障害者の支援方法)

	訪問 (1)	来所相談 (2)	同行 (3)	電話相談 (4)	電子メール (5)	個別支援 会議 (6)	関係機関 (7)	その他 (8)	計 (9)
件数 (01)	97	36	62	339	0	24	317	4	879

(養護者および障害者の支援内容)

	福祉サービスの利用等に関する支援 (1)	障害や症状の理解に関する支援 (2)	健康・医療に関する支援 (3)	不安の解消・情緒安定に関する支援 (4)	家族関係・人間関係に関する支援 (5)	家計・経済に関する支援 (6)	権利擁護に関する支援 (7)	その他 (8)	計 (10)
件数 (01)	341	36	125	276	104	16	12	55	965

(家庭訪問等個別支援事業)

	訪問世帯数 (1)	延べ訪問数 (2)
件数 (01)	24	77

(障害者虐待防止啓発活動業務)

件数 (01)	1
---------	---

事業報告の附属明細書

令和2年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人福浜会